

(案)

小樽市子ども・子育て支援ニーズ調査結果報告書

平成 年 月

小樽市

【目次】

1	小樽市子ども・子育て支援事業計画の見直しに係るニーズ調査の実施	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象	1
(3)	調査方法	1
(4)	回収結果	1
(5)	備考	1
2	ニーズ調査の結果	2
(1)	お子さんとご家族の状況	2
(2)	子どもの育ちをめぐる環境	5
(3)	母親の就労状況	8
(4)	父親の就労状況	12
(5)	お子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況	15
(6)	お子さんの病気の際の対応	21
(7)	お子さんの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用	25
(8)	お子さんの地域の子育て支援事業の利用状況	28
(9)	その他	34

1 小樽市子ども・子育て支援事業計画の見直しに係るニーズ調査の実施

(1) 調査目的

小樽市子ども・子育て支援事業計画の策定に当たっては、平成25年11月に子育て世帯を対象にしたニーズ調査を実施していますが、この度の事業計画の中間見直しに際して、教育・保育及び地域子ども・子育て支援に関するニーズの変化を捉えるため、次のとおりニーズ調査を実施しました。

(2) 調査対象

小学校就学前児童の保護者 1,000件

(3) 調査方法

- ・ 郵送による配布及び回収
- ・ 調査期間 平成29年10月4日～10月20日

(4) 回収結果

	就学前児童数	送付数	回収数	回収率
小学校就学前児童の保護者	3,696人	1,000	478	47.8%
(参考) 平成25年11月調査時	4,302人	2,000	888	44.4%

(5) 備考

- ・ 質問に対して無回答であったものを「無回答」と表記している。割合は、無回答分も含めている。
- ・ 本文中の表における比率は、少数第2位を四捨五入したため、単数回答の項目でも個々の比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・ それぞれのグラフ中に表記した「n=〇〇」のnは、回答者総数（もしくは質問対象者総数）を示す。

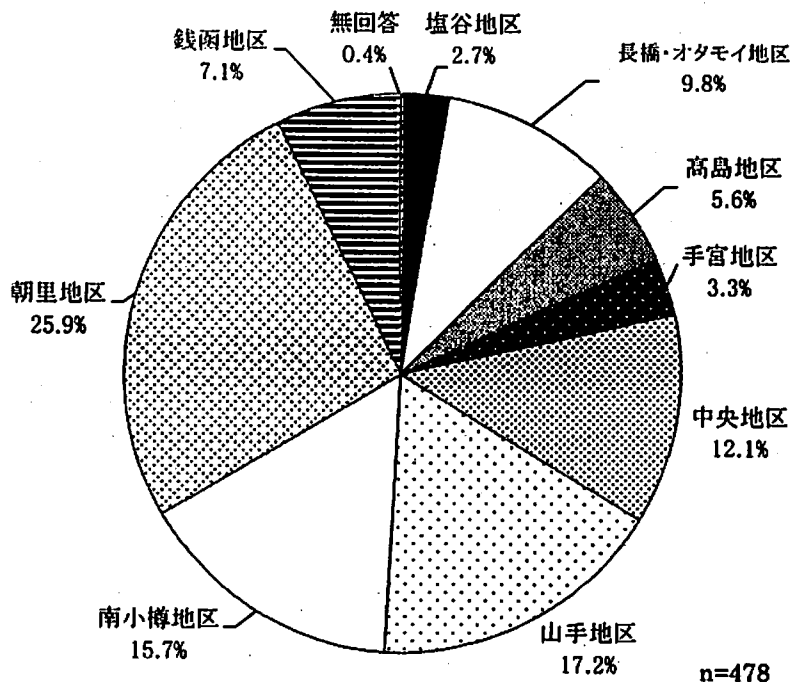
2 ニーズ調査の結果

(1) お子さんご家族の状況

問1 お住まいの地区はどちらですか？

お住まいの地区は、朝里地区（25.9%）が最も多く、次いで山手地区（17.2%）、南小樽地区（15.7%）、中央地区（12.1%）となった（図表1）。

<図表1 お住まいの地区>



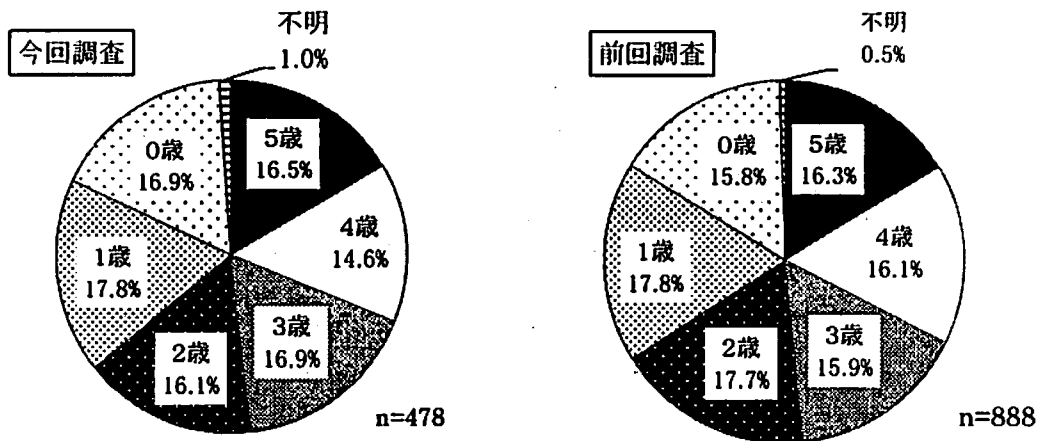
【備考】

塩谷地区	1. 蘭島、2. 忍路、3. 桃内、4. 塩谷
長橋・オタモイ地区	5. オタモイ、6. 幸、7. 長橋、8. 旭町
高島地区	9. 祝津、10. 赤岩、11. 高島
手宮地区	12. 手宮、13. 末広町、14. 梅ヶ枝町、15. 錦町、16. 清水町、17. 豊川町、18. 石山町、19. 色内3丁目
中央地区	20. 稲穂、21. 花園、22. 色内1・2丁目、23. 港町、24. 堺町、25. 東雲町、26. 山田町、27. 相生町、28. 入船1・2丁目
山手地区	29. 富岡、30. 緑、31. 最上、32. 松ヶ枝、33. 入船3～5丁目、34. 天狗山
南小樽地区	35. 住ノ江、36. 住吉町、37. 有幌町、38. 信番町、39. 若松、40. 奥沢、41. 天神、42. 真栄、43. 潮見台、44. 新富町、45. 勝納町、46. 若竹町、47. 築港
朝里地区	48. 桜、49. 船浜町、50. 朝里、51. 新光、52. 望洋台、53. 新光町、54. 朝里川温泉
銭函地区	55. 張碓町、56. 春香町、57. 桂岡町、58. 銭函、59. 見晴町、60. 星野町

問2 あて名のお子さんの生年月をご記入ください。

お子さんの年齢は、0歳から5歳までそれぞれ16%前後で、おおよそ同じ割合となった(図表2)。

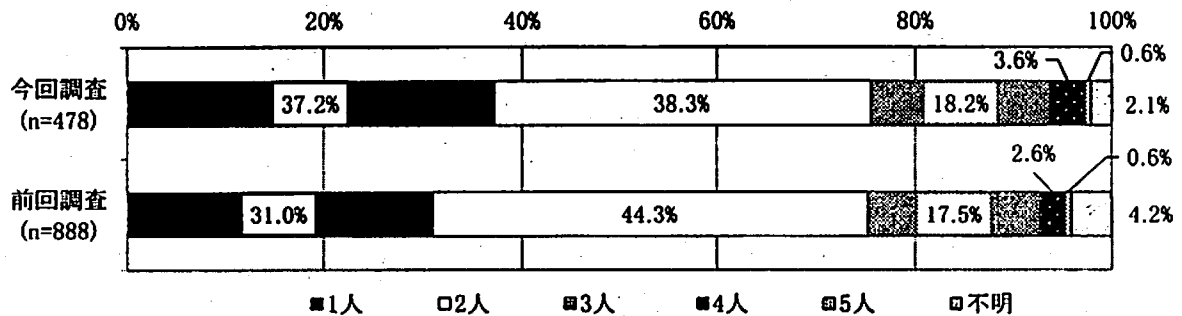
<図表2 お子さんの年齢>



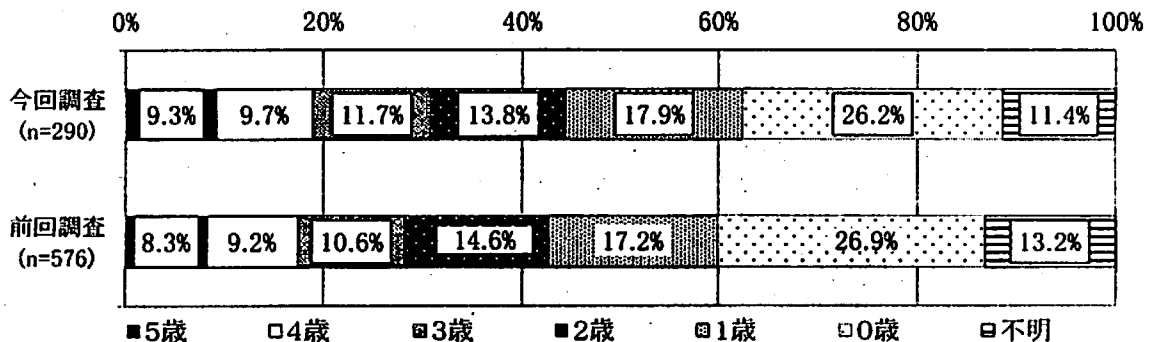
問3 あて名のお子さんは何人きょうだいですか？ あて名のお子さんを含めた人数をご記入ください。また、2人以上いる場合は、末子の方の生年月をご記入ください。

きょうだいの数は「2人」(38.3%)が最も多く、次いで「1人」(37.2%)となった(図表3)。末子の年齢は、「0歳」(26.2%)が最も多く、次いで「1歳」(17.9%)となった(図表4)。

<図表3 きょうだいの数>



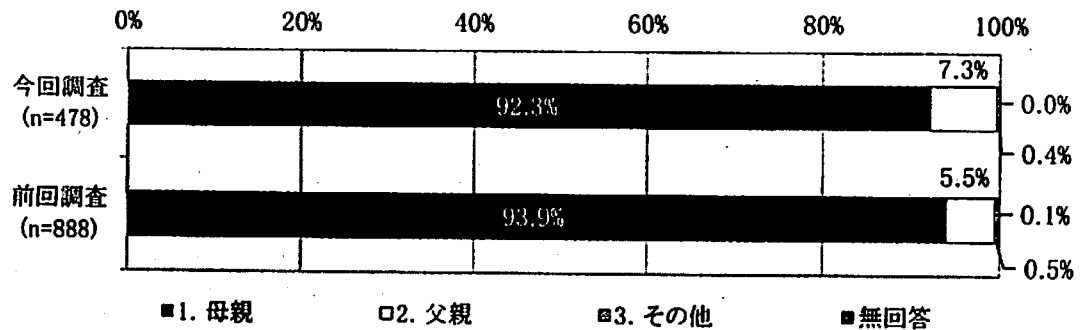
<図表4 末子の年齢>



問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか？ あて名のお子さんからみた関係でお答えください。

回答者は「母親」が92.3%、「父親」が7.3%となった（図表5）。

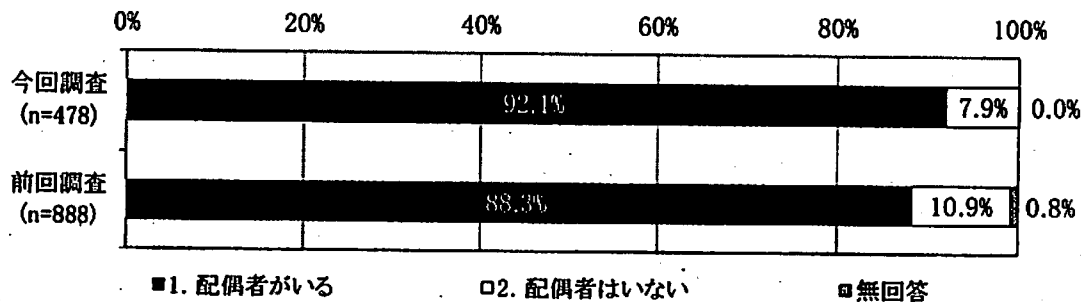
＜図表5 回答者＞



問5 この調査票にご回答いただく方の配偶関係についてお答えください。

回答者の配偶関係は、「配偶者がいる」が92.1%、「配偶者がいない」が7.9%となった（図表6）。

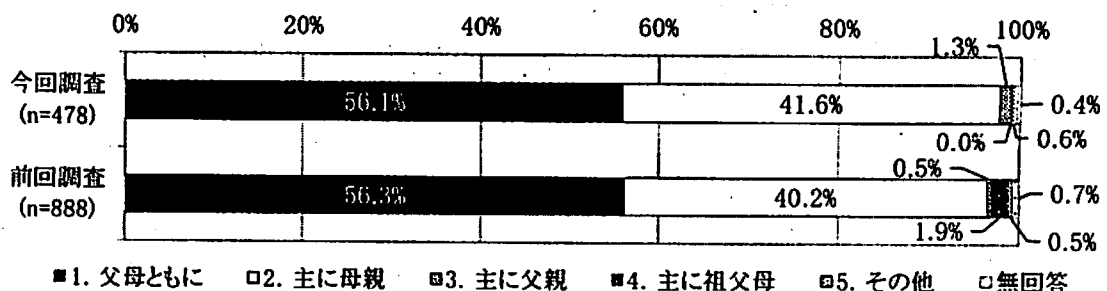
＜図表6 回答者の配偶関係＞



問6 あて名のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか？

子育てを主に行っている方は、「父母ともに」(56.1%) が最も多く、次いで「主に母親」(41.6%) となった（図表7）。

＜図表7 子育てを主に行っている方＞

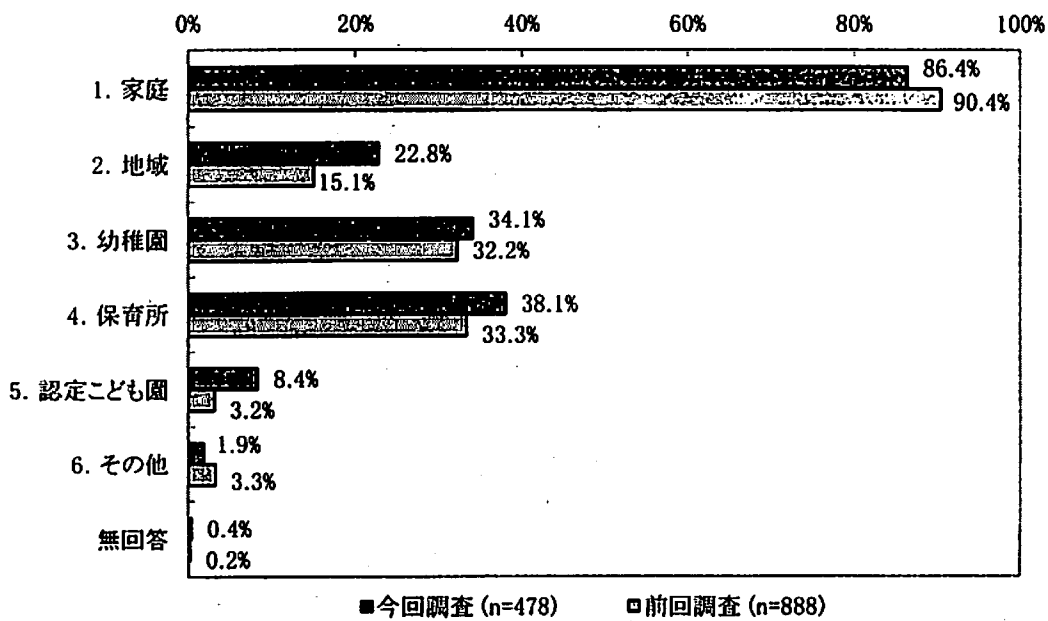


(2) 子どもの育ちをめぐる環境

問7 あて名のお子さんの子育て（教育を含む）に最も影響すると思われる環境についてお答えください。（当てはまる番号すべてに○）

子育てに最も影響する環境は、「家庭」（86.4%）が最も多く、次いで「保育所」（38.1%）、「幼稚園」（34.1%）となった（図表8）。

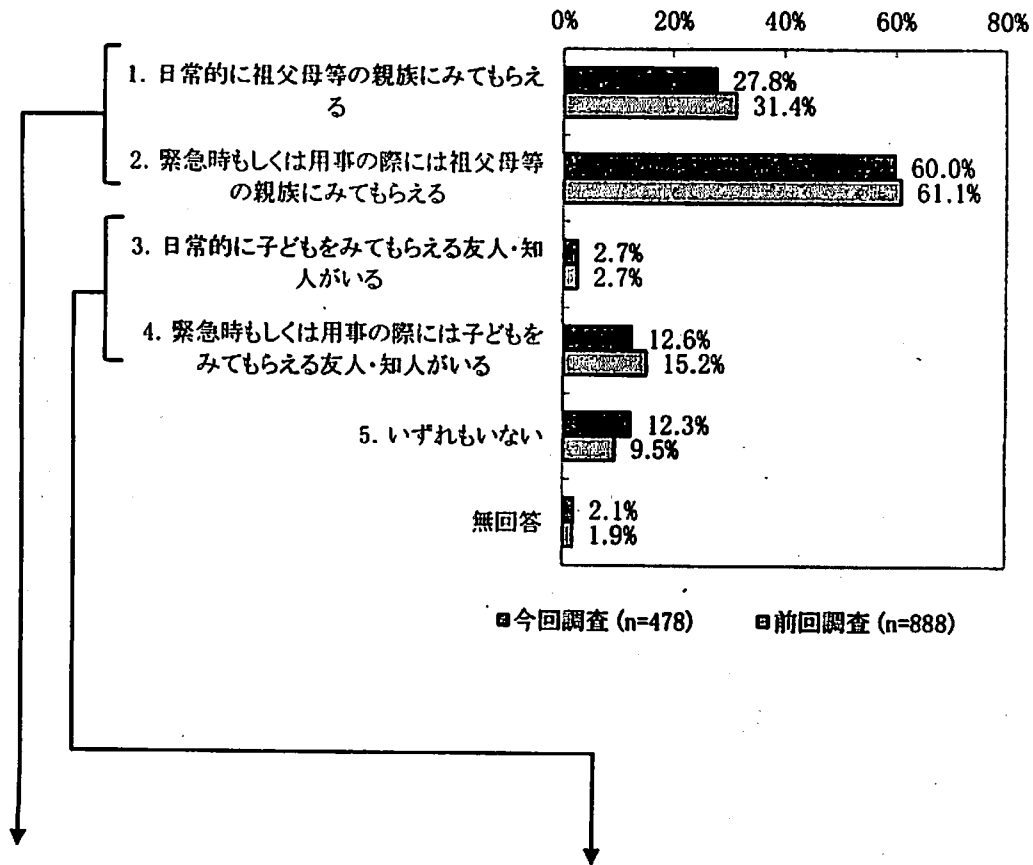
＜図表8 子育てに最も影響すると思われる環境＞



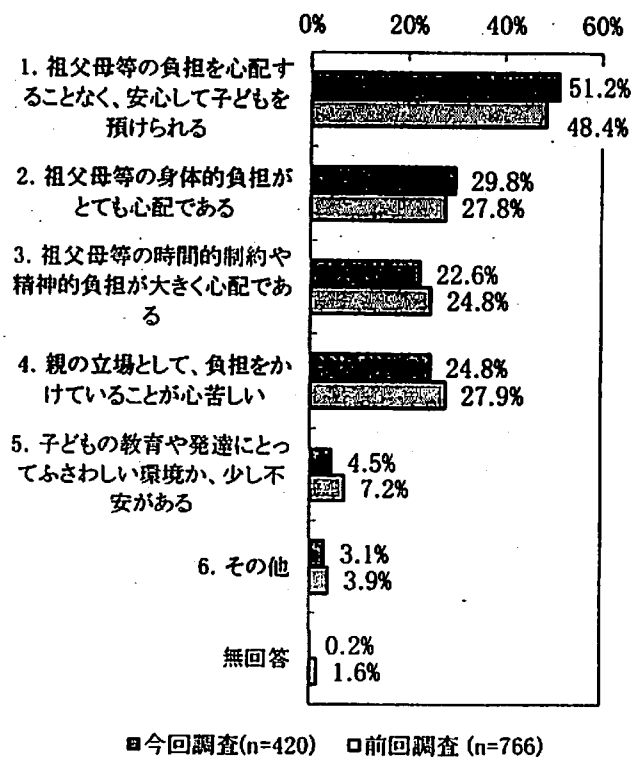
問8 日頃、あて名のお子さんをみてもらえる親戚・知人はいますか？ 預かってもらうことに関する状況とあわせてお答えください。（当てはまる番号すべてに○）

- ・お子さんを預かってもらえる人の有無は、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」（60.0%）が最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」（27.8%）となった（図表9）。
- ・「祖父母等の親族にみてもらえる」方の預かってもらうことに関する状況は、「祖父母等の負担を心配することなく、安心して子どもを預けられる」（51.2%）が最も多く、次いで「祖父母等の身体的負担がとても心配である」（29.8%）、「親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（24.8%）、「祖父母等の時間的制約や精神的負担が大きく心配である」（22.6%）となった（図表10）。
- ・「友人・知人に預かってもらえる」方の預かってもらうことに関する状況は、「友人・知人の負担を心配することなく、安心して子どもを預けられる」と「親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」がともに38.4%と多く、次いで「友人・知人の時間的制約や精神的負担が大きく心配である」が19.2%となった（図表11）。

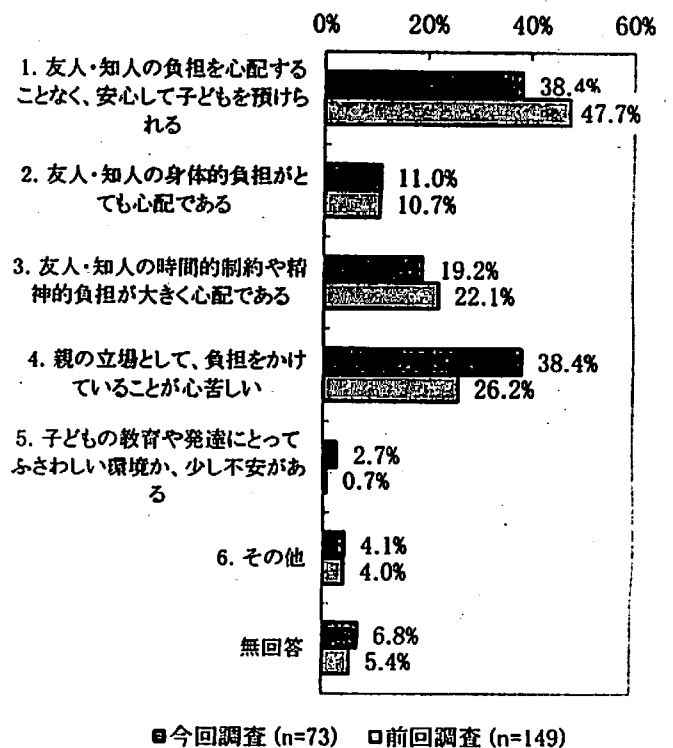
<図表9 預かってもらえる人の有無>



<図表10 預かってもらうことに関する状況>
(祖父母等の親族に預かってもらえる方)



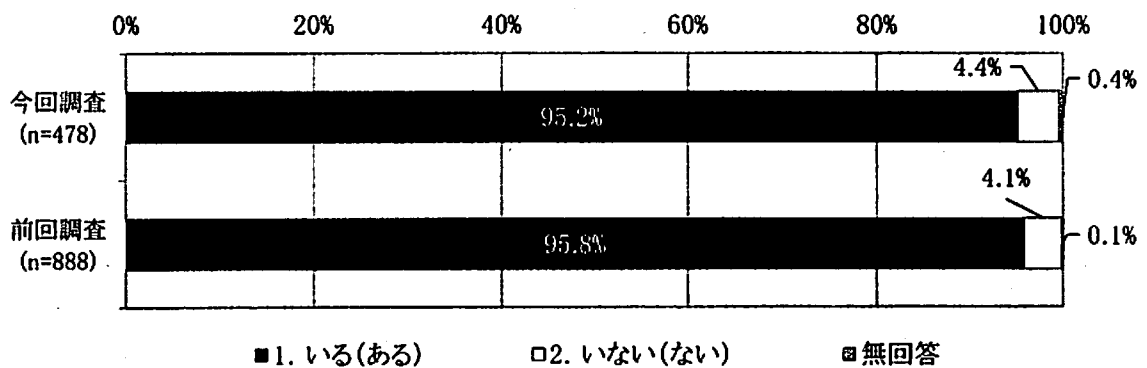
<図表11 預かってもらうことに関する状況>
(友人・知人に預かってもらえる方)



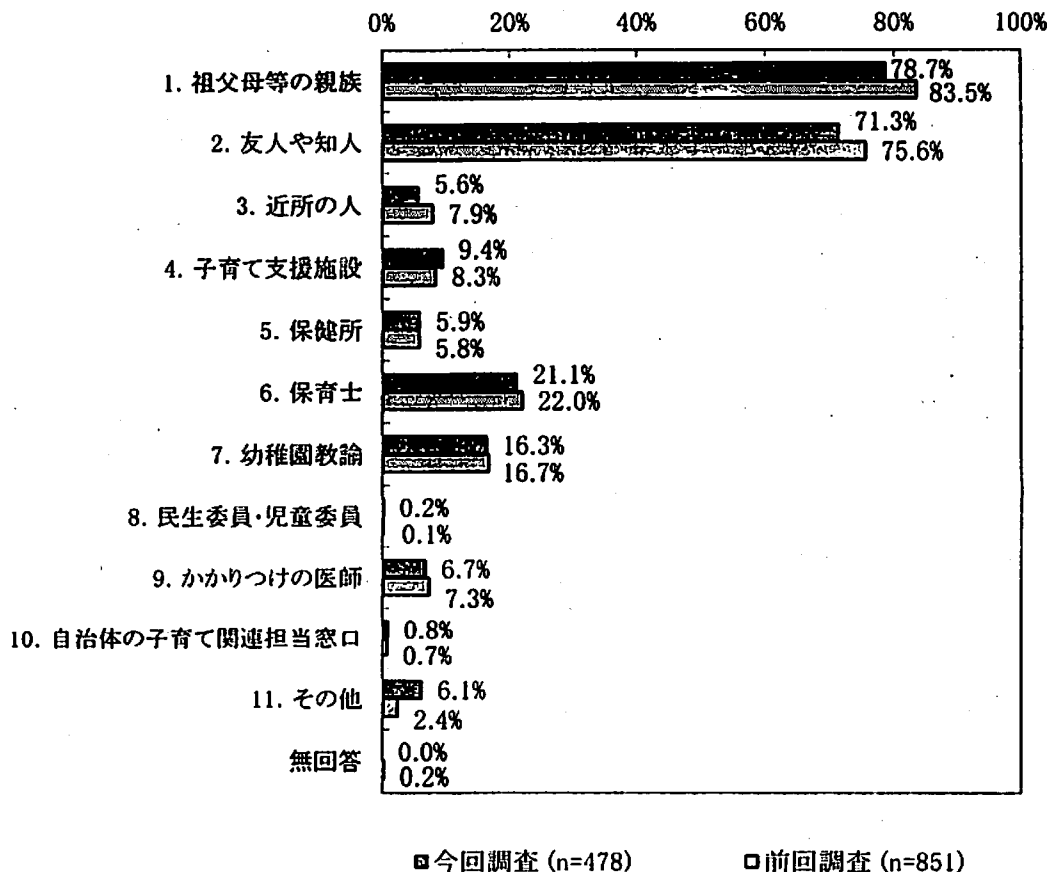
問9 あて名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人（場所）はいますか（ありますか）？（どちらかに○）また、その相談先についてお答えください。（当てはまる番号すべてに○）

- ・ 子育てについて気軽に相談できる人（場所）の有無は、「いる（ある）」が95.2%、「いない（ない）」が4.4%となった（図表12）。
- ・ 子育てについて気軽に相談できる人（場所）が「いる（ある）」方の相談相手（場所）は、「祖父母等の親族」（78.7%）が最も多く、次いで「友人や知人」（71.3%）、「保育士」（21.1%）、「幼稚園教諭」（16.3%）となった。（図表13）

<図表12 相談先の有無>



<図表13 相談相手(場所)>



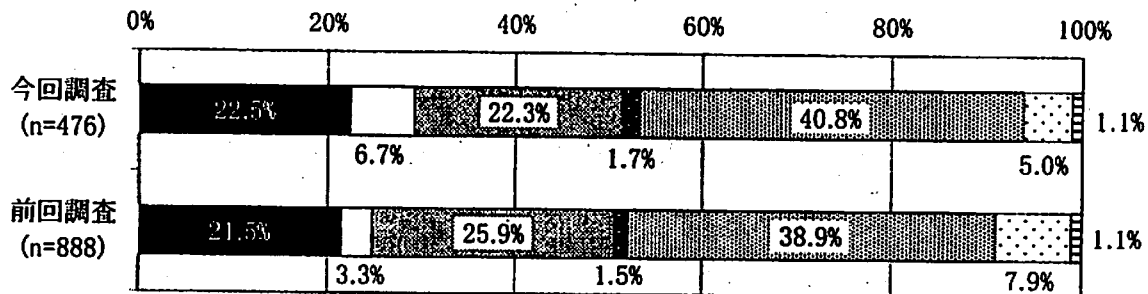
(3) 母親の就労状況

問 10-1 就労状況と就労時間【母親】

母親の「就労状況」と「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合はもっとも多いパターンについてお答えください。また、産休・育休・介護休業中の方は休業に入る前の状況でお答えください。なお、就労時間の表記は、必ず24時間制（例：8時00分～18時30分）でご記入ください。

- ・ 母親の就労状況は、「以前は就労していたが、現在は就労していない」（40.8%）が最も多く、次いで「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（22.5%）、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（22.3%）となった（図表 14）。
- ・ 前回調査の結果と比較すると、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が微増（21.5%→22.5%）し、「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」が増加（3.3%→6.7%）している（図表 14）。
- ・ 1週当たりの就労日数は、「5日」（66.0%）が最も多く、次いで「6日」（15.4%）となった。また、1日当たりの就労時間は、前回調査の結果と比較して、5時間以下で減少し、「8時間」で増加（29.6%→36.0%）した（図表 15）。
- ・ 家を出る時間は「8時～8時29分」（32.4%）、「7時30分～7時59分」（21.7%）、帰宅時間は「18時～18時29分」（20.9%）が最も多い（図表 16）。

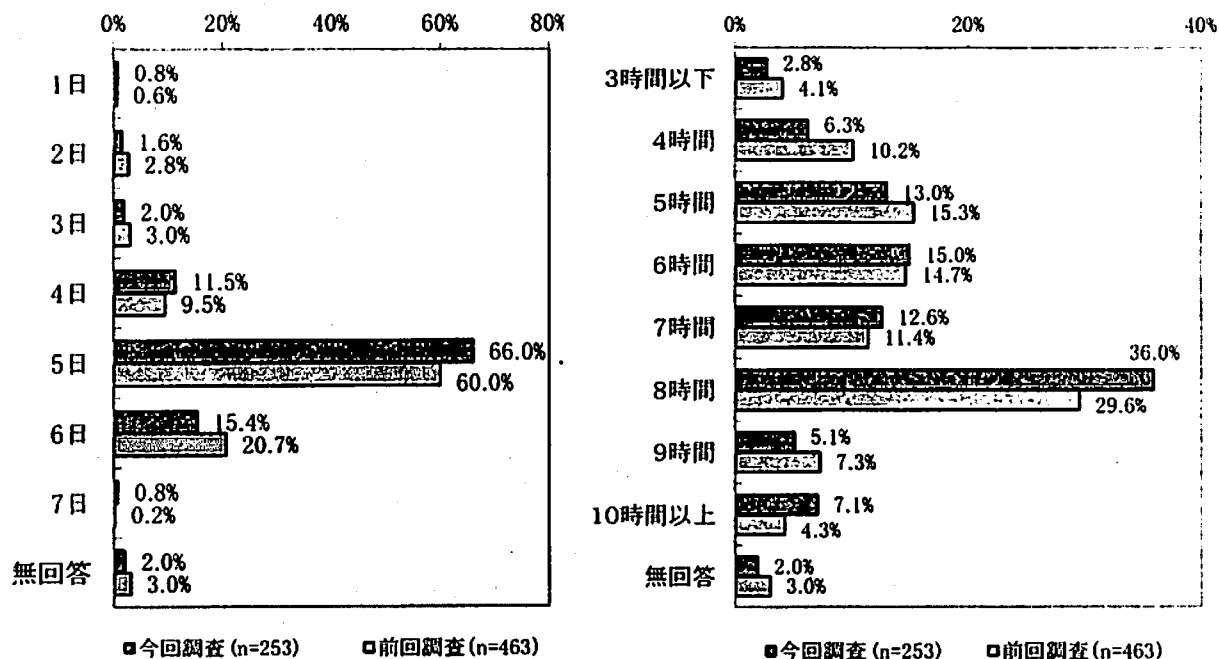
<図表 14 母親の就労状況>



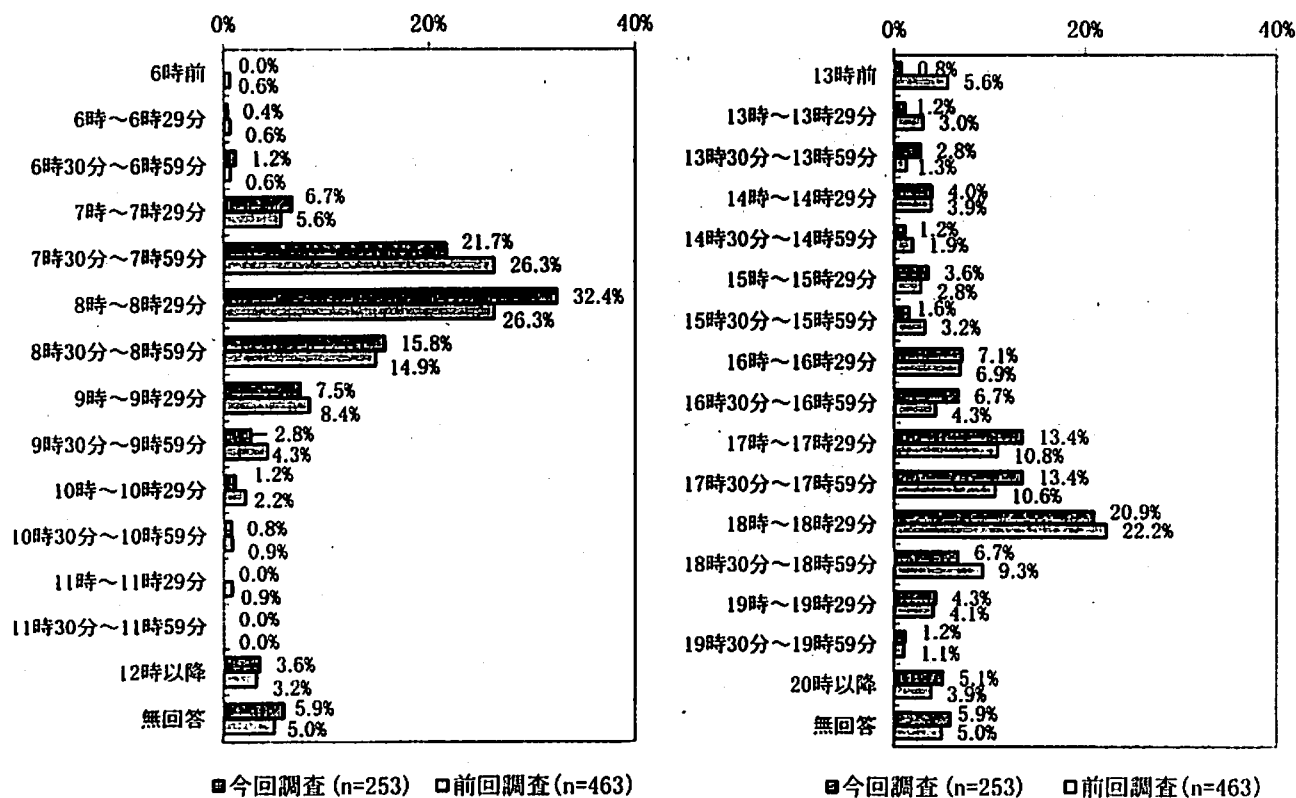
- 1. フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- 2. フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- ▨ 3. パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- 4. パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- ▨ 5. 以前は就労していたが、現在は就労していない
- 6. これまで就労したことがない
- 無回答

(図表 15、図表 16 へ)

<図表 15 1 週当たりの就労日数と 1 日当たりの就労時間(母親)>



<図表 16 家を出る時間と帰宅時間(母親)>

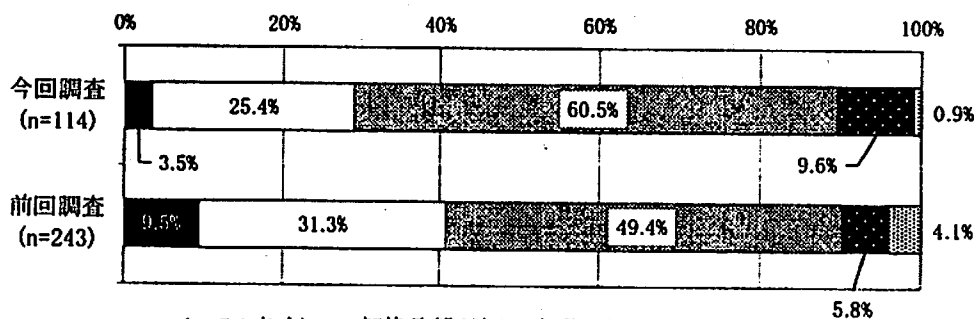


問 10-2 フルタイムへの転換希望【母親】

問 10-1 で「3.」または「4.」（パート・アルバイト等で就労している）を選んだ方にお伺いします。フルタイムへの転換希望はありますか？（1つに○）

パート・アルバイト等で就労している方のフルタイムへの転換希望は、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」（60.5%）が最も多く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」（25.4%）となった（図表 17）。

＜図表 17 フルタイムへの転換希望(母親)＞



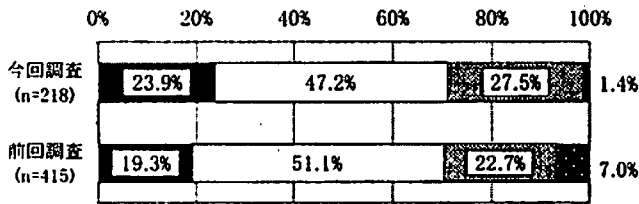
- 1. フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
- 2. フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない
- ▨3. パート・アルバイト等の就労を続けることを希望
- 4. パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい
- 5. 無回答

問 10-3 就労希望【母親】

問 10-1 で「5.」または「6.」（現在就労していない）を選んだ方にお伺いします。就労したいという希望はありますか？（1つに○）

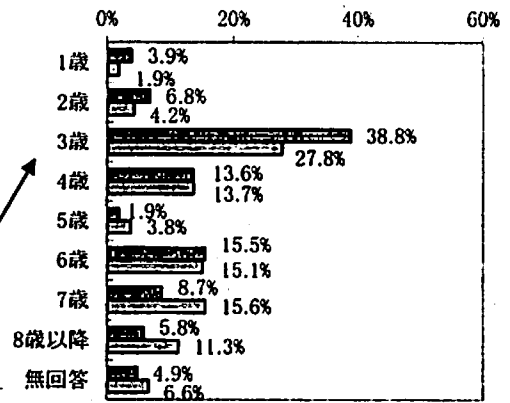
- ・ 現在就労していない方の就労希望は、「1年以上先に就労したい」（47.2%）が最も多く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」（27.5%）となった（図表 18）。また、1年以上先に就労したいと回答した方の希望する就労時期は、一番下の子どもが「3歳」になったころ（38.8%）が最も多い（図表 19）。
- ・ 前回調査の結果と比較すると、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が増加（22.7%→27.5%）しており（図表 18）、「1年以上先に就労したい」と回答した方の希望する就労時期は、「1歳」（1.9%→3.9%）、「2歳」（4.2%→6.8%）、「3歳」（27.8%→38.8%）でそれぞれ増加している（図表 19）。
- ・ 「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」方の希望する就労形態は、「パート、アルバイト等（フルタイム以外）」が76.7%、「フルタイム」が23.3%となった（図表 20）。また、希望する就労時間は、1週当たり「5日」（48.3%）、1日当たり「5時間」（30.0%）が最も多い（図表 21）。

<図表 18 就労希望(母親)>



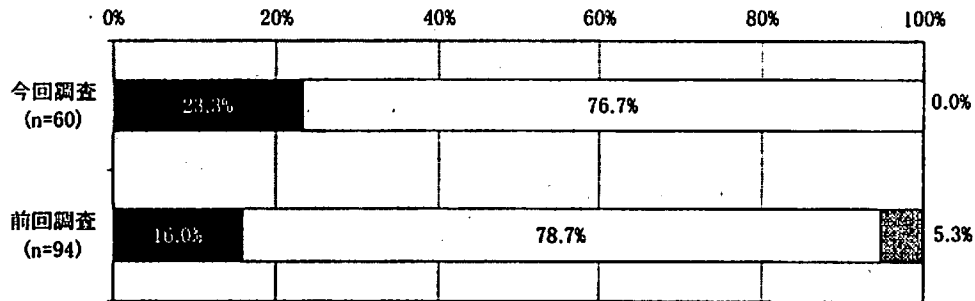
- 1. 子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)
- 2. 1年以上先、一番下の子どもが()歳になったころに就労したい
- 3. すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい
- 無回答

<図表 19 希望する就労時期(母親)一番下の子どもの年齢>



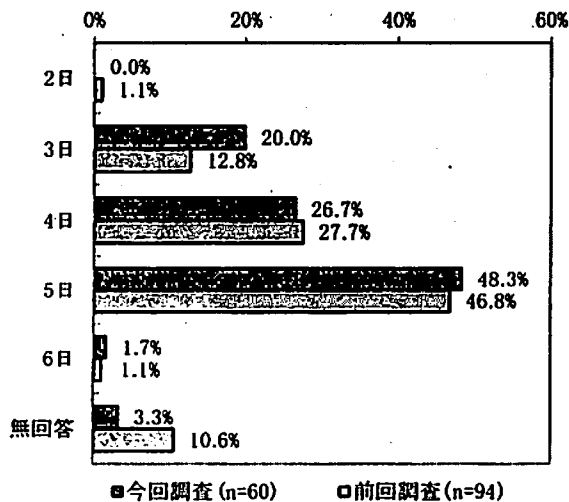
■ 今回調査 (n=103) □ 前回調査 (n=212)

<図表 20 希望する就労形態(母親)>

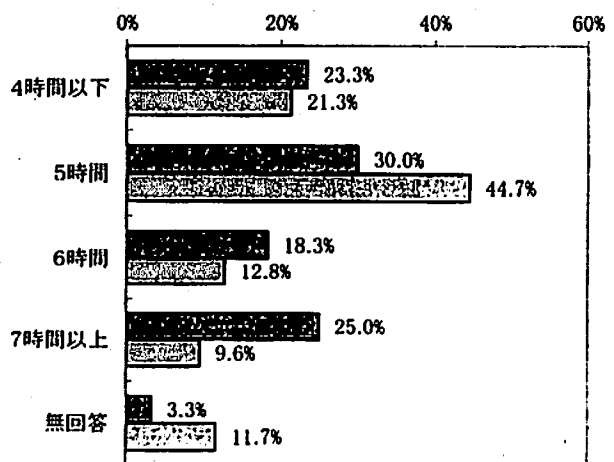


- 1. フルタイム
- 2. パート、アルバイト等(フルタイム以外)
- 無回答

<図表 21 希望する1週当たりの就労日数と1日当たりの就労時間(母親)>



■ 今回調査 (n=60) □ 前回調査 (n=94)



■ 今回調査 (n=60) □ 前回調査 (n=94)

(4) 父親の就労状況

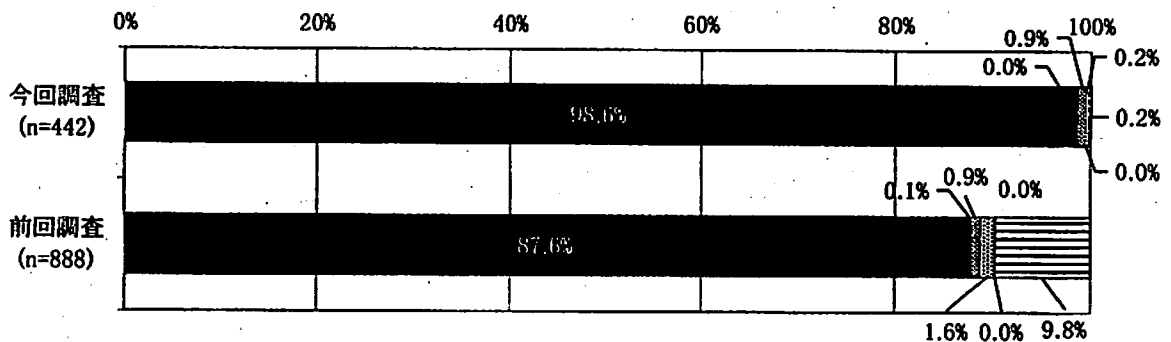
問 11-1 就労状況と就労時間（父親）

父親の「就労状況」と「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合はもっとも多いパターンについてお答えください。また、産休育休・介護休業中の方は休業に入る前の状況でお答えください。

なお、就労時間の表記は、必ず 24 時間制（例：8 時 00 分～18 時 30 分）でご記入ください。

- ・ 父親の就労状況は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が 98.6%と圧倒的に多く、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」は 0.9%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」は 0.2%となった（図表 22）。
- ・ 「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」、「パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である」、「これまで就労したことがない」は 0.0%となった（図表 22）。
- ・ 1 週当たりの就労日数は、「6 日」（46.8%）が最も多く、次いで「5 日」（44.3%）となった。1 日当たりの就労時間は「10 時間以上」（39.1%）が最も多く、次いで「8 時間」（38.2%）となった（図表 23）。
- ・ 家を出る時間は「7 時 30 分～7 時 59 分」（25.0%）、「8 時～8 時 29 分」（18.4%）「7 時～7 時 29 分」（15.7%）、の 3 区分が多数を占め、帰宅時間は「20 時以降」（34.1%）が最も多い（図表 24）。

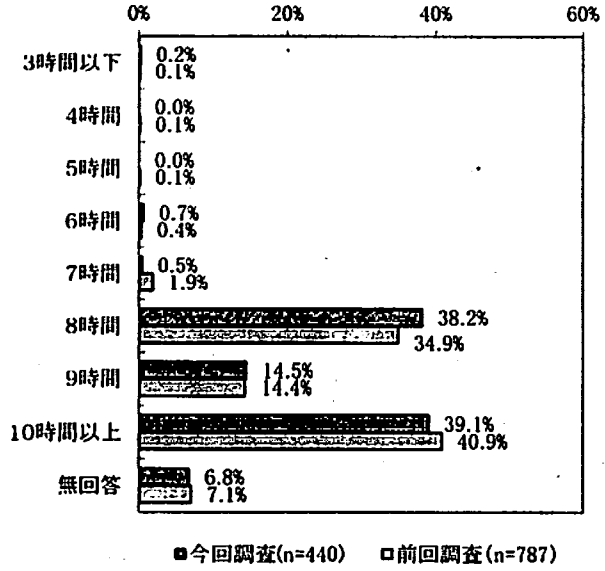
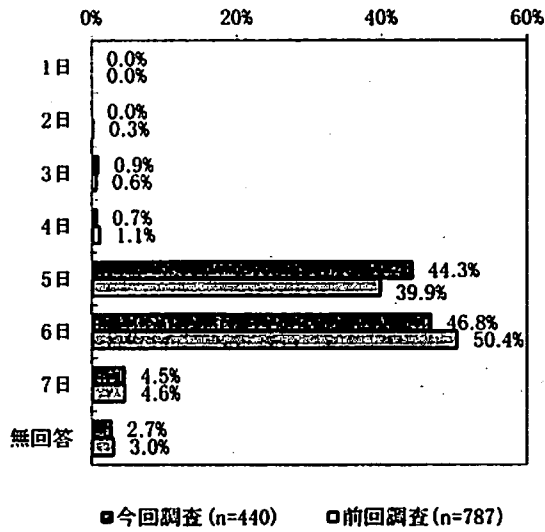
<図表 22 就労状況(父親)>



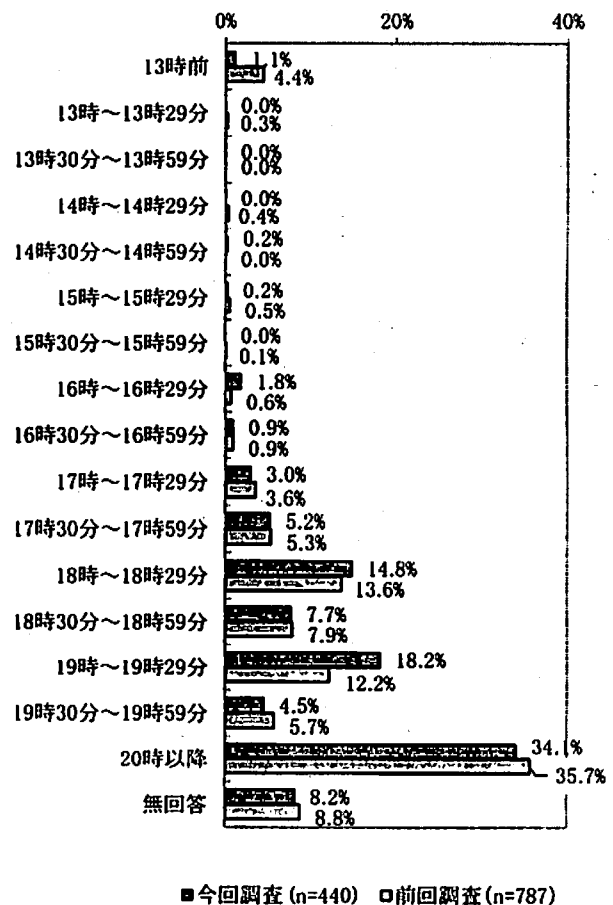
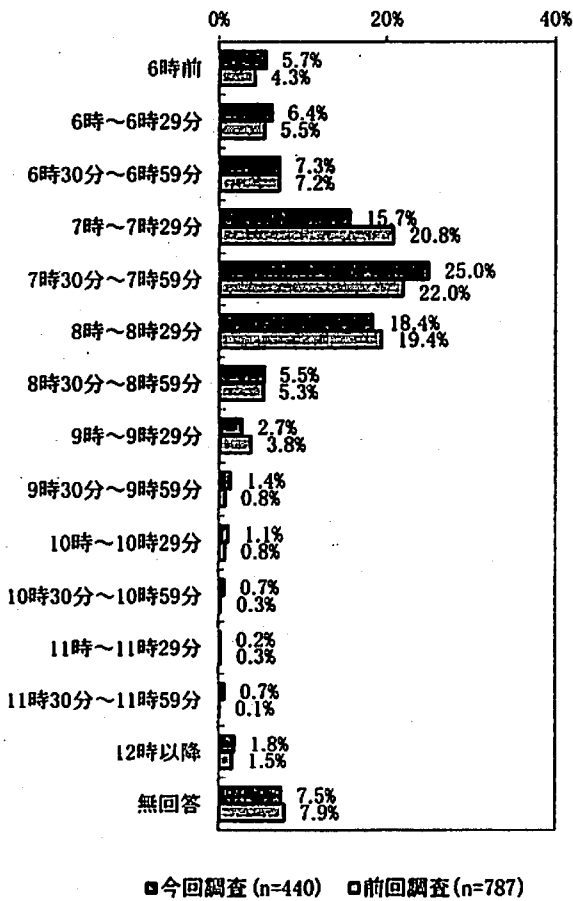
- 1. フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- 2. フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- 3. パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- 4. パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- 5. 以前は就労していたが、現在は就労していない
- 6. これまで就労したことがない
- 無回答

(図表 23、図表 24 へ)

<図表 23 1週当たりの就労日数と1日当たりの就労時間(父親)>



<図表 24 家を出る時間と帰宅時間(父親)>



問 11-2 フルタイムへの転換希望【父親】

問 11-1 で「3.」または「4.」（パート・アルバイト等で就労している）を選んだ方にお伺いします。フルタイムへの転換希望はありますか？（1つに○）

パート・アルバイト等で就労している方（4名）のフルタイムへの転換希望は、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」及び「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」がそれぞれ1名、および「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が2名となった。

問 11-3 就労希望【父親】

問 11-1 で「5.」または「6.」（現在就労していない）を選んだ方にお伺いします。就労したいという希望はありますか？（1つに○）

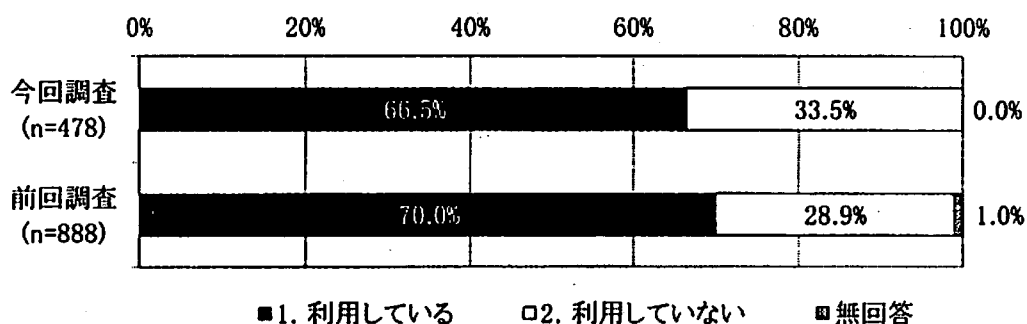
現在就労していない方（1名）の就労希望は、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」で、就労形態は、「フルタイム」であった。

(5) お子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

問 12 あて名のお子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育事業」を利用していますか？

お子さんの現在の定期的な教育・保育事業の利用状況は、「利用している」が 66.5%、「利用していない」が 33.5%となった（図表 25）。

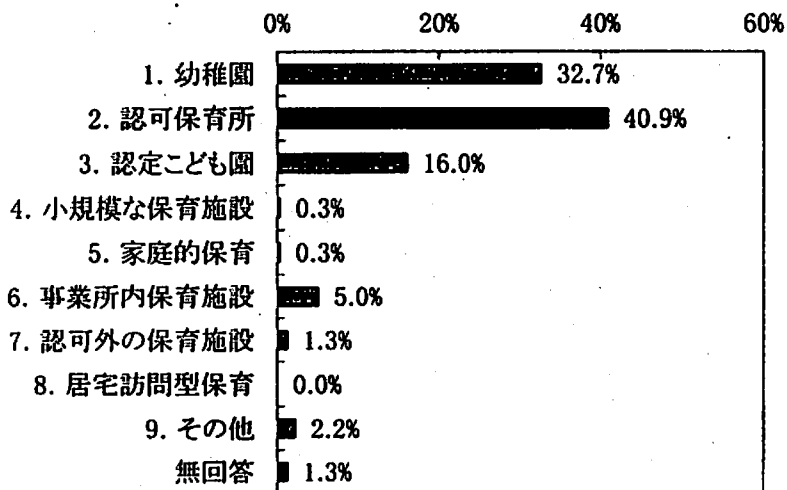
＜図表 25 定期的な教育・保育事業の利用状況＞



問 12-1 あて名のお子さんは、平日にどのような教育・保育の事業を利用していますか？年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。（1つに○）

お子さんが現在、「定期的な教育・保育事業を利用している」方の実際に利用している教育・保育事業は、「認可保育所」が 40.9%（前回 43.2%）と最も多く、次いで「幼稚園」32.7%（前回 41.0%）、「認定こども園」16.0%（前回 2.6%）となった（図表 26）。

＜図表 26 定期的に利用している教育・保育事業＞

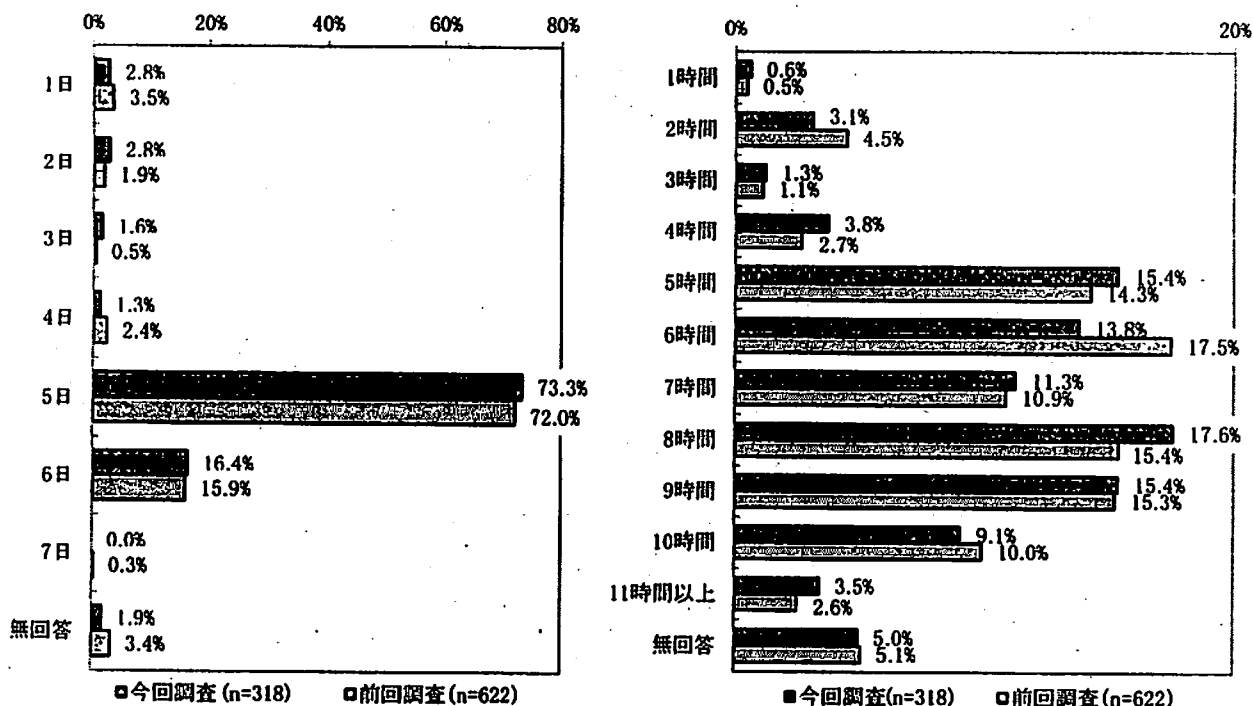


n=318

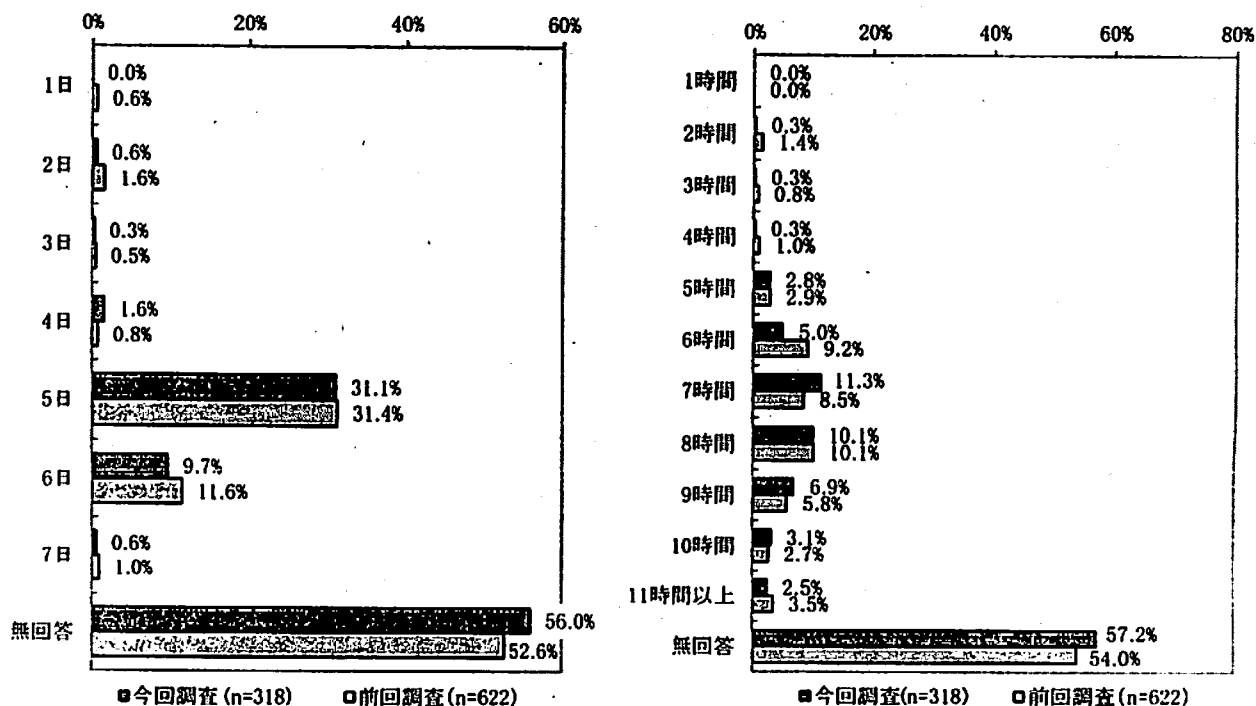
問 12-2 平日に定期的に利用している教育・保育事業について、どのくらい利用していますか？また、希望としてはどのくらい利用したいですか？

- ・ 定期的に利用している教育・保育事業の利用頻度についてみると、今回・前回とも1週間当たり「5日」が最も多い。1日当たりの利用時間についてみると、今回は「8時間」（17.6%）、前回は「6時間」（17.5%）が多かった（図表 27）。
- ・ 利用開始時間と終了時間についてみると、利用開始時間は今回・前回とも「9時～9時29分」が多く、終了時間は今回・前回とも「14時～14時29分」が多い（図表 28）。

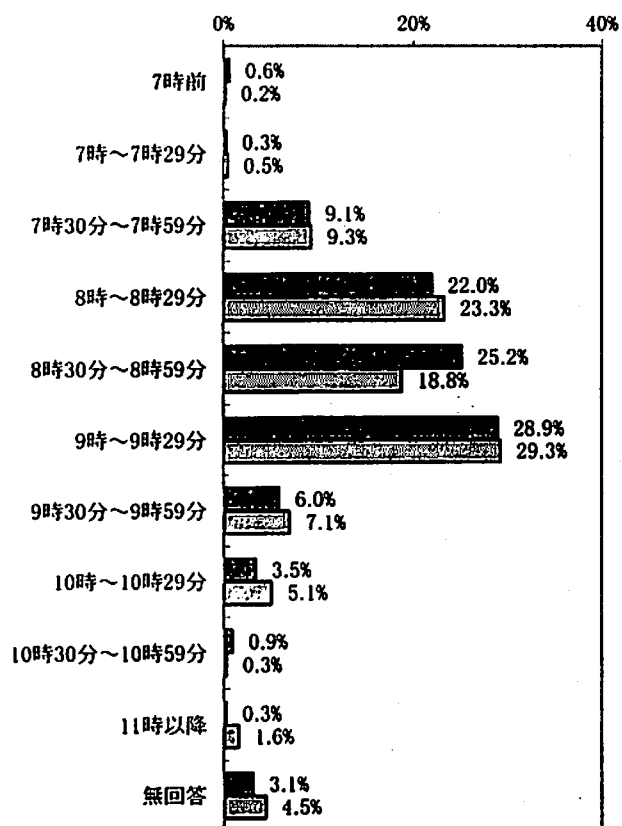
＜図表 27 1 週当たりの利用日数と 1 日当たりの利用時間＞
（ 現 在 ）



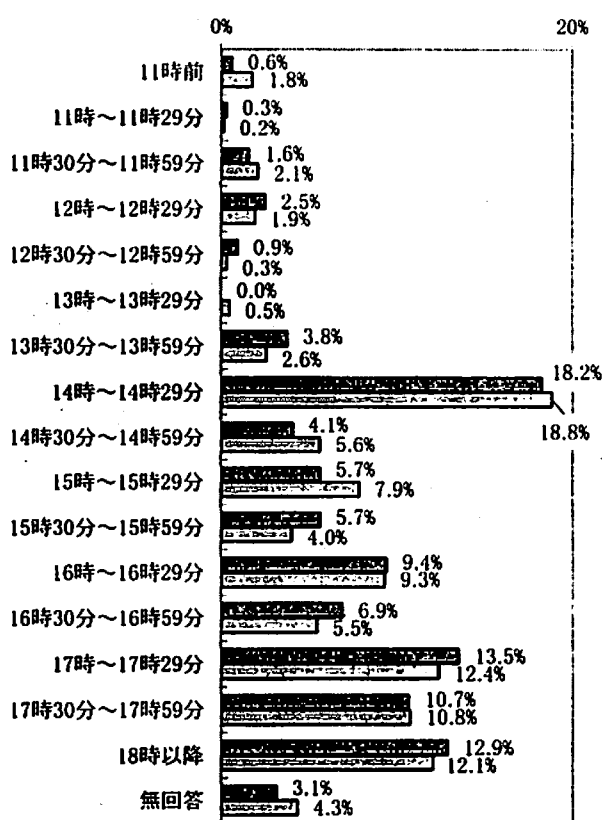
（ 希 望 ）



<図表 28 利用開始時間と終了時間>
(現在)

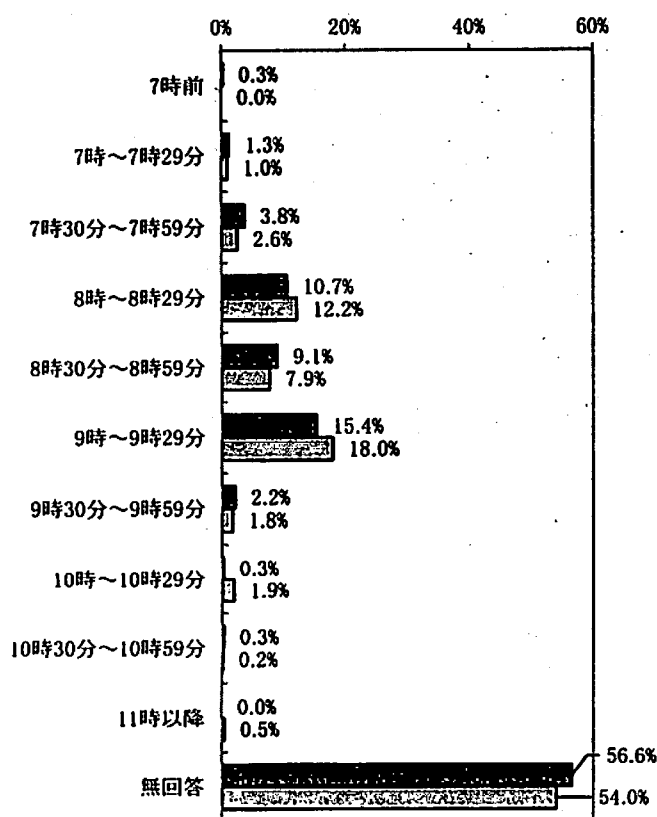


■今回調査 (n=318) □前回調査 (n=622)

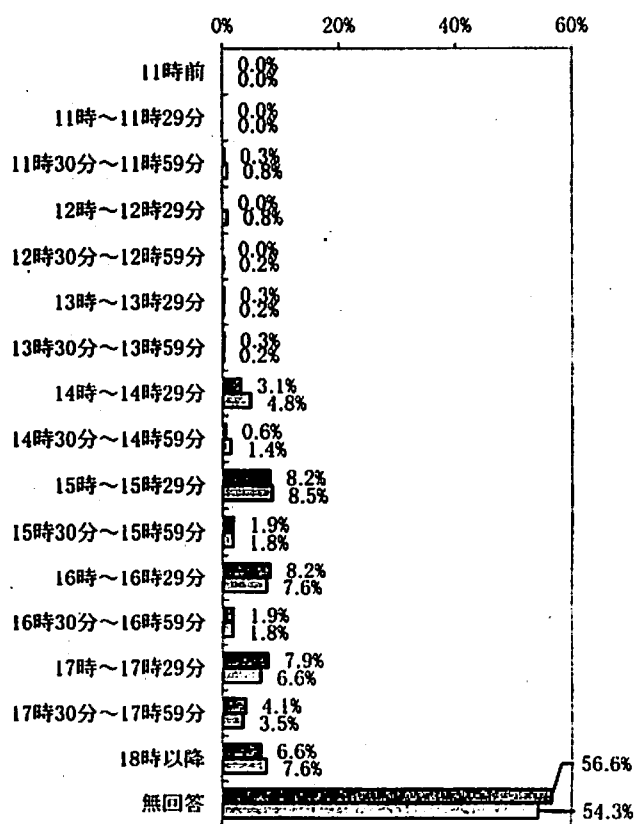


■今回調査 (n=318) □前回調査 (n=622)

(希望)



■今回調査 (n=318) □前回調査 (n=622)

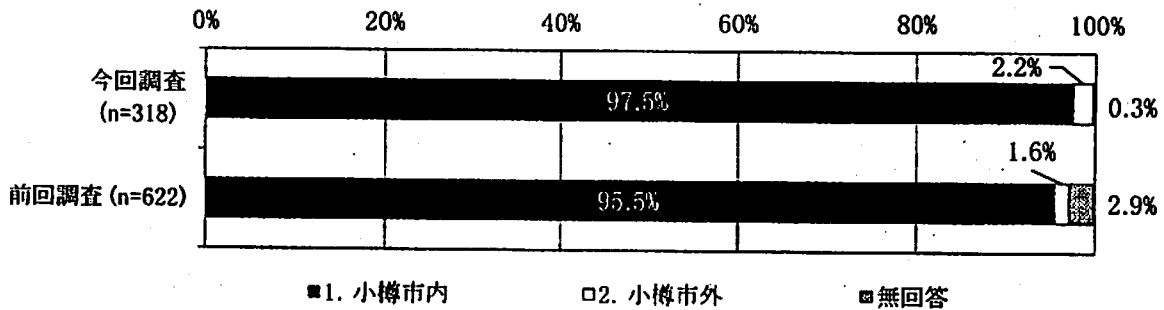


■今回調査 (n=318) □前回調査 (n=622)

問 12-3 現在、利用している教育・保育事業の実施場所はどちらですか？

お子さんが現在、「定期的な教育・保育事業を利用している」方の現在利用している教育・保育事業の実施場所は、「小樽市内」が97.5%、「小樽市外」が2.2%となった（図表 29）。

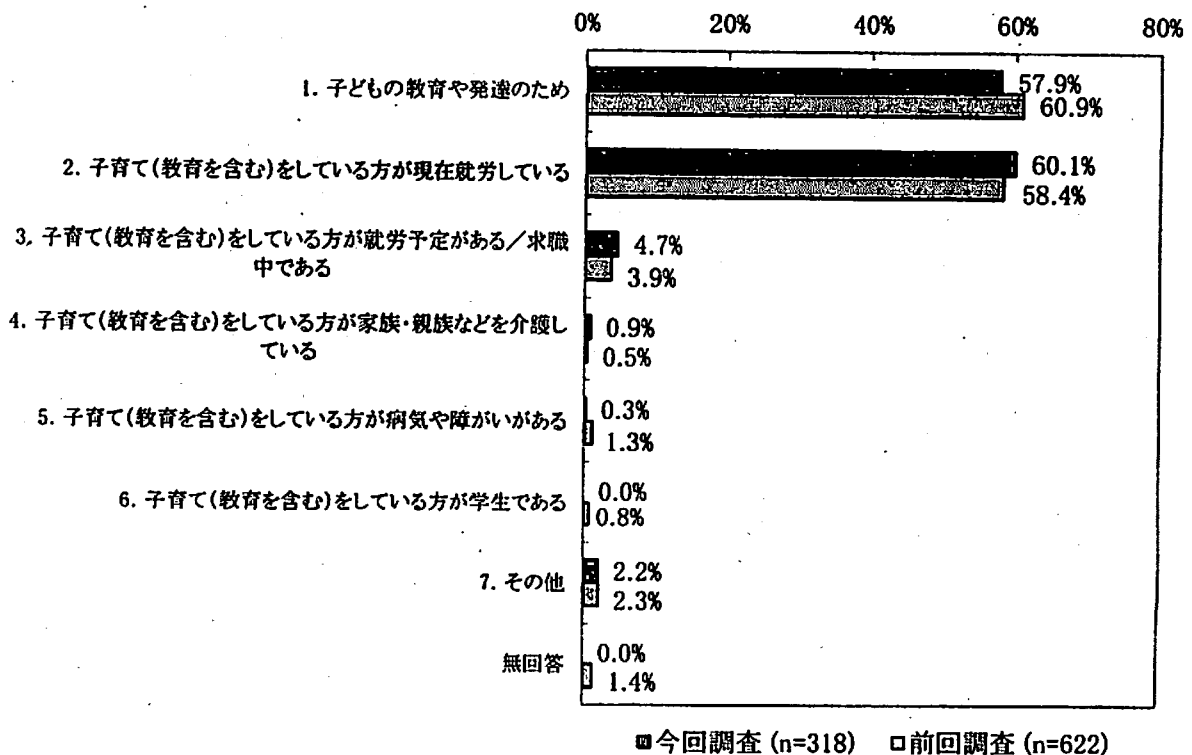
＜図表 29 現在利用している教育・保育事業の実施場所＞
（定期的な教育・保育事業を利用している方）



問 12-4 平日に定期的に教育・保育の事業を利用している理由は何ですか？（当てはまる番号すべてに○）

定期的に教育・保育事業を利用している理由は、「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」（60.1%）が最も多く、次いで「子どもの教育や発達のため」（57.9%）となった（図表 30）。

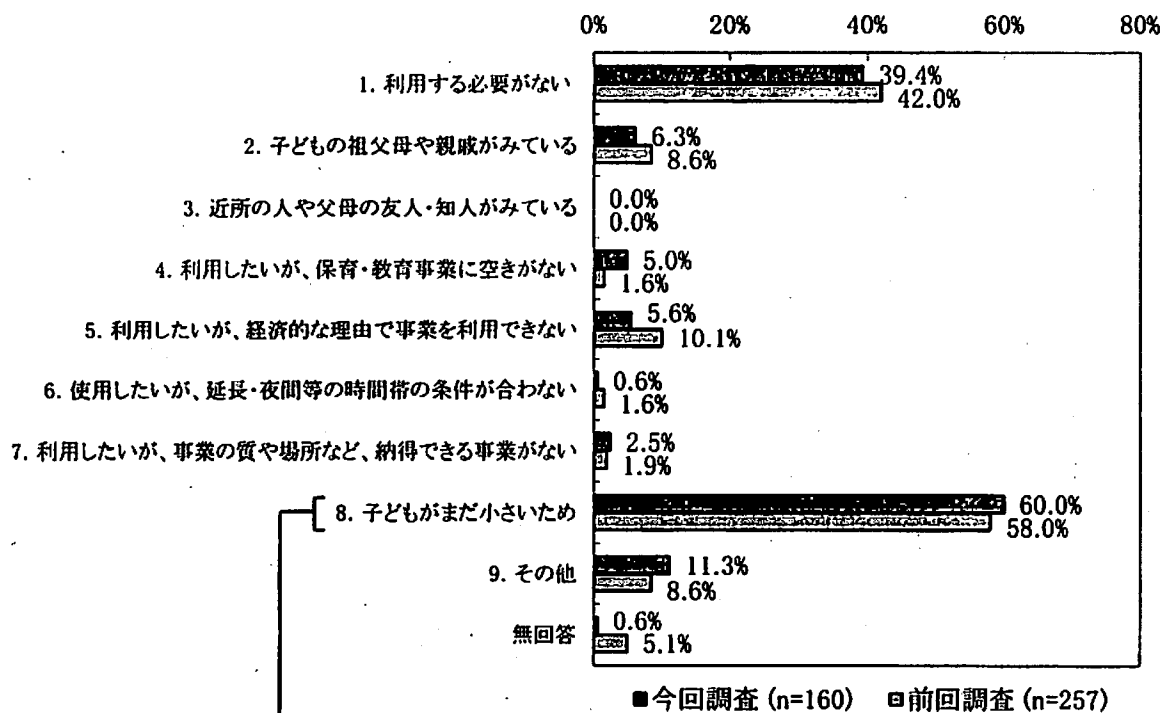
＜図表 30 定期的に教育・保育事業を利用している理由＞



問 12-5 問 12 で「2. 利用していない」に○を付けた方にうかがいます。利用していない理由は何ですか？（当てはまる番号すべてに○）

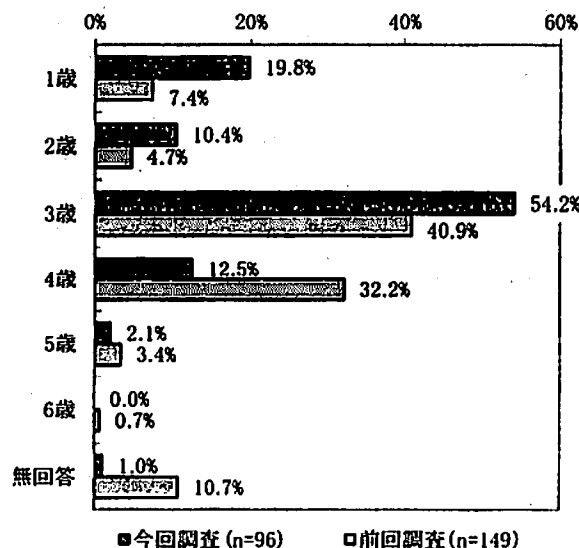
- ・ 「定期的な教育・保育事業を利用していない」方の理由は、「子どもがまだ小さいため」（60.0%）が最も多く、次いで「利用する必要がない」（39.4%）となった（図表 31）。
- ・ 「子どもがまだ小さいため」と回答した方の希望する利用時期については、「3歳」が 54.2%（前回 40.9%）が最も多く、次いで「1歳」の 19.8%（前回 7.4%）となった（図表 32）。

<図表 31 定期的に教育・保育事業を利用していない理由>



<図表 32 希望する利用時期>

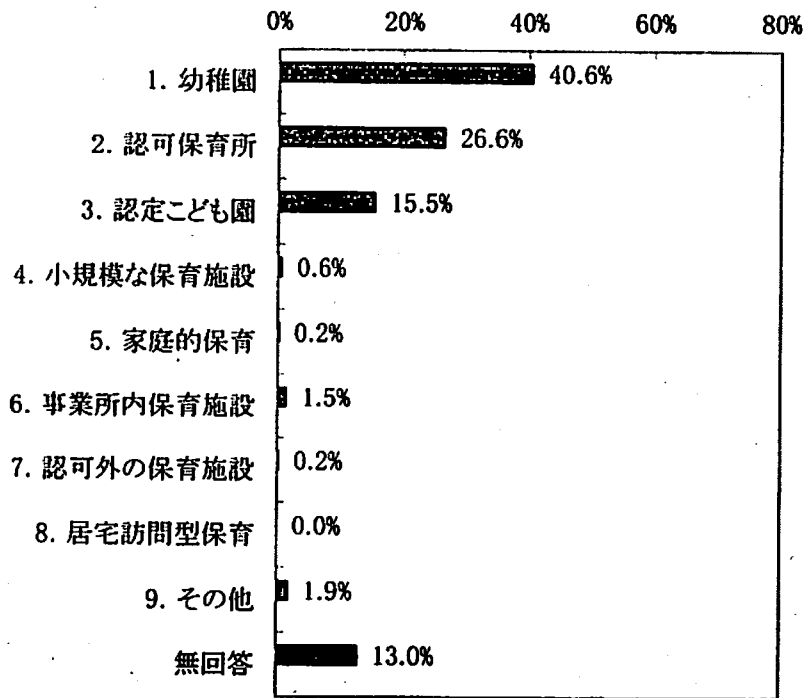
(子どもの年齢)



問 13 現在、利用している、利用していないにかかわらず、あて名のお子さんの平日の教育・保育事業で、「定期的に」利用したい事業は何ですか？（1つに○）

現在の利用有無にかかわらず平日の教育・保育事業で「定期的に」利用したい事業は、「幼稚園」が40.6%（前回59.5%）と最も多く、次いで「認可保育所」26.6%（前回34.7%）、「認定こども園」15.5%（前回15.8%）となった（図表33）。

＜図表 33 定期的に利用したい教育・保育事業＞

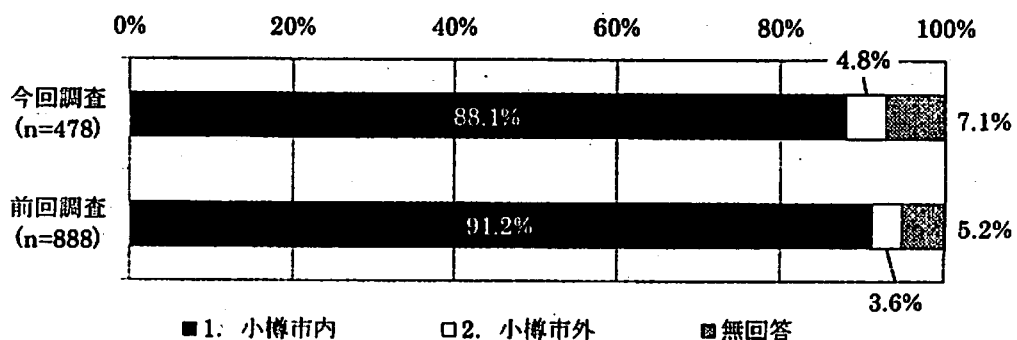


n=478

問 14 教育・保育事業を利用したい場所はどちらですか？

教育・保育事業を利用したい場所は、「小樽市内」が88.1%、「小樽市外」が4.8%となった（図表34）。

＜図表 34 教育・保育事業を利用したい場所＞



〔6〕お子さんの病気の時の対応

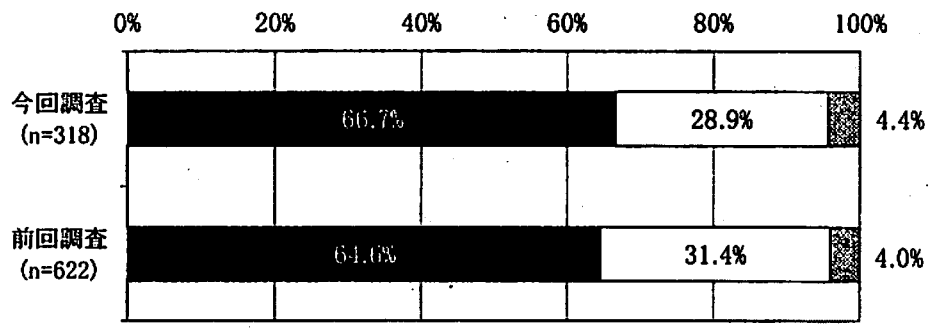
問 15 平日の定期的な教育・保育の事業を利用していると答えた保護者の方（問 12 で「1.」に○を付けた方）にうかがいます。利用していない方は問 16 にお進みください。

この1年間に、あて名のお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できず、特別な対応をとる必要がありましたか（1つに○）？

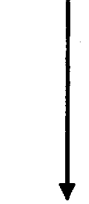
必要があった場合は、この1年間に行った対処方法を選択し（当てはまる番号すべてに○）、それぞれの延べ日数をお答えください。

- ・この1年間にお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できず特別な対応をとる必要があったかについては、「あった」が66.7%、「なかった」が28.9%となった（図表35）。
- ・「特別な対応をとる必要があった」方の対処方法は、「母親が休んだ」（83.5%）が最も多く、次いで「（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった」（31.1%）となった（図表36）。
- ・「父親が休んだ」「母親が休んだ」「親族・知人に子どもをみてもらった」「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」と回答した方の具体的な日数についてみると、いずれも「1～5日」が最も多く、次いで「6～10日」となった（図表37）。

＜図表 35 特別な対応をとる必要があったか＞

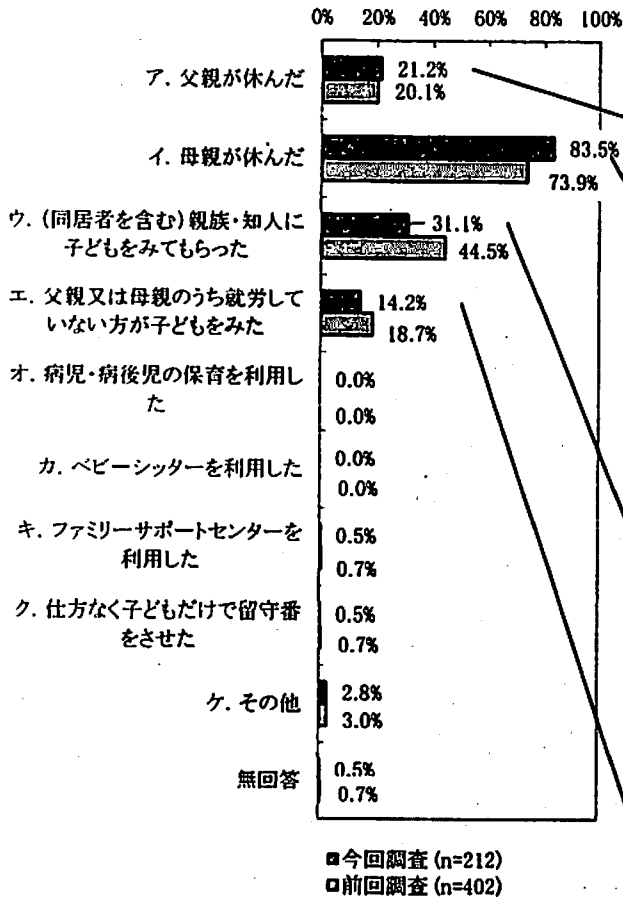


■ 1. あった □ 2. なかった ▨ 無回答

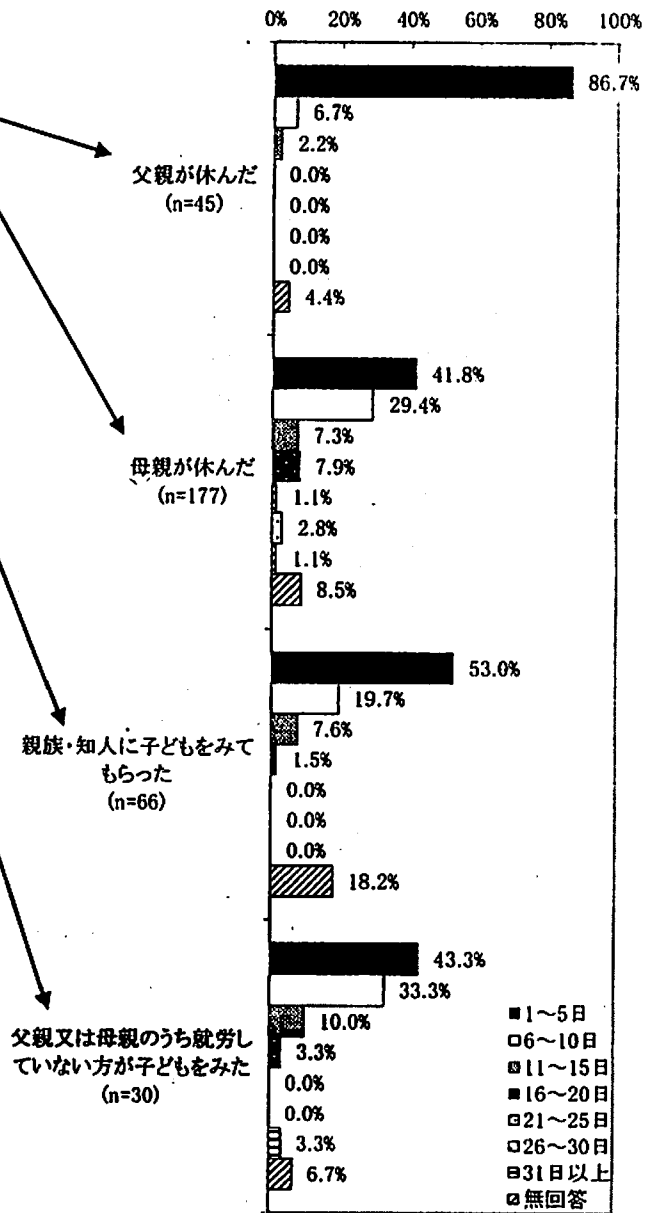


(図 36 へ)

<図表 36 1年間の対処法>



<図表 37 対処日数>



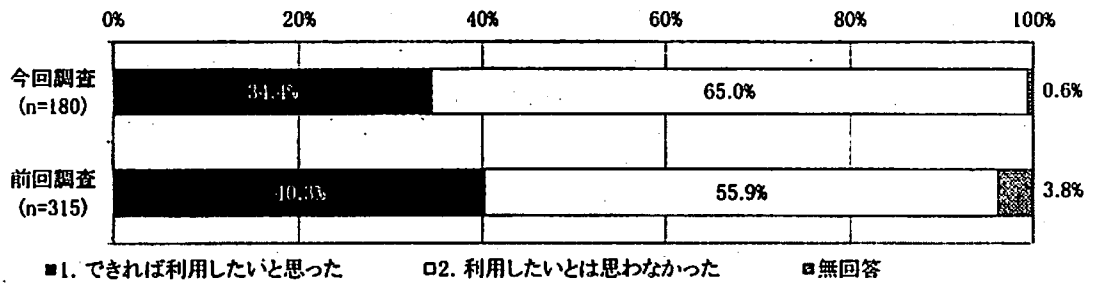
問 15-1 問 15 で「ア.」「イ.」のいずれかを回答した方にうかがいます。

その際、できれば「病児・病後児保育事業」を利用したいと思われましたか？

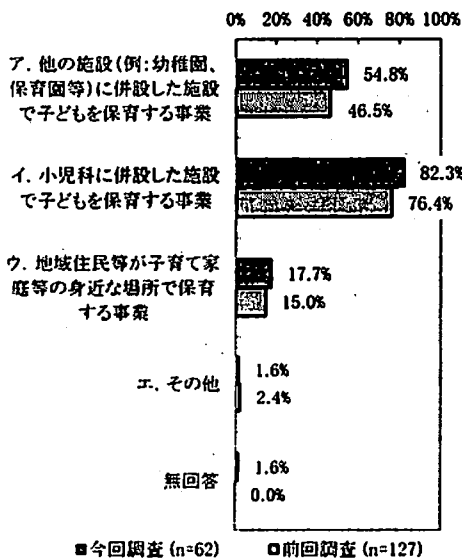
思われた場合は希望延べ日数と利用したい事業形態（当てはまるもの全てに○）を、思わなかった場合はその理由（当てはまる番号すべてに○）をお答えください。

- ・対処方法として、「父親あるいは母親が休んだ」方の病児・病後児保育事業の利用意向は、「できれば利用したいと思った」が 34.4%、「利用したいと思わなかった」が 65.0%となった（図表 38）。
- ・病児・病後児保育事業を「できれば利用したいと思った」方の希望する事業形態は、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」（82.3%）が最も多く、次いで「他の施設（例：幼稚園、保育園等）に併設した施設で子どもを保育する事業」（54.8%）となった（図表 39）。また、希望延べ日数は、「1～5日」（46.8%）が最も多かった（図表 40）。
- ・病児・病後児保育事業を「利用したいとは思わなかった」方の理由は、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」（59.0%）が最も多く、次いで「親が仕事を休んで対応する」（48.7%）となった（図表 41）。

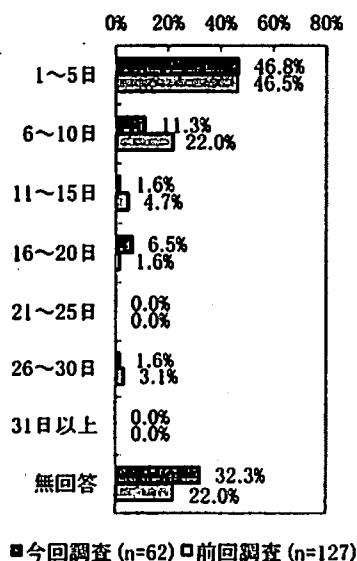
＜図表 38 病児・病後児保育事業の利用意向＞
（父親あるいは母親が休んだ方）



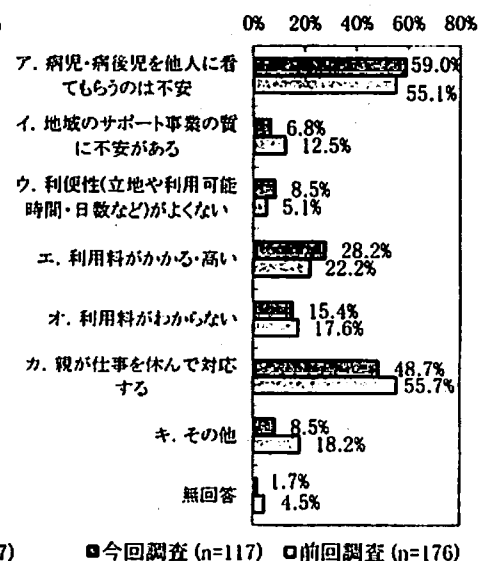
＜図表 39 希望する事業形態＞



＜図表 40 希望延べ日数＞



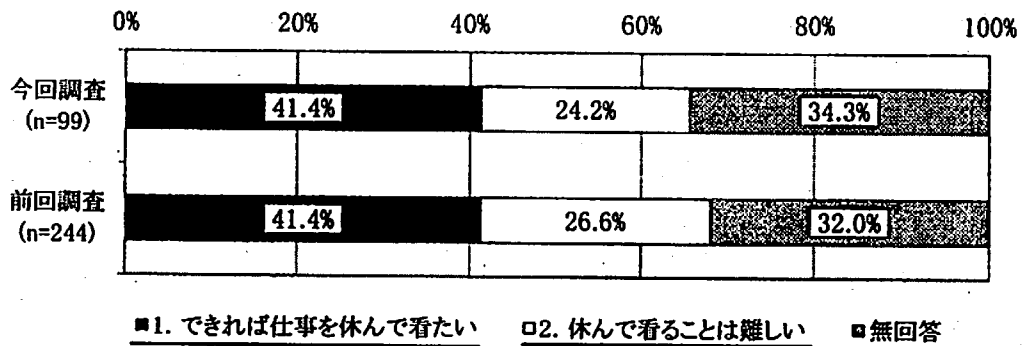
＜図表 41 理由＞



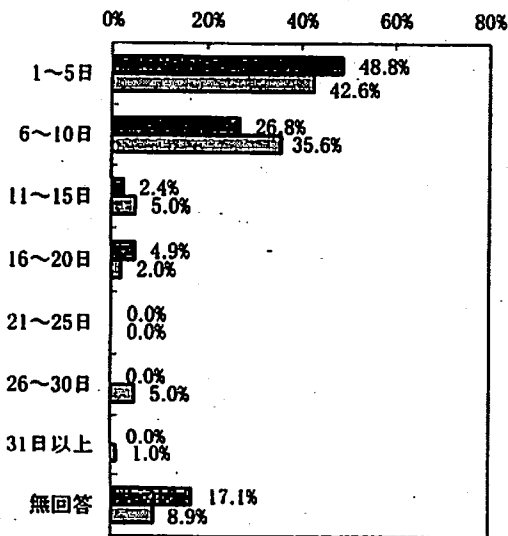
問 15-2 問 15で「ウ。」から「ケ。」のいずれかを回答した方にうかがいます。
 その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思われましたか？
 思われた場合は、できれば仕事を休んで看たいと思う延べ日数を、休んで看ることが
 難しい場合は、その理由（当てはまる番号すべてに○）を合わせてお答えください。

- ・対処方法として、父親あるいは母親が休む以外の対処をした方の「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たいと思ったか」については、「できれば仕事を休んで看たい」が41.4%、「休んで看るとは難しい」が24.2%となった（図表42）。
- ・「できれば仕事を休んで看たい」と回答した方の希望延べ日数は「1～5日」（48.8%）が最も多く、次いで「6～10日」（26.8%）となった（図表43）。
- ・「休んで看るとは難しい」方の理由は、「子どもの看護を理由に休みが取れない」が45.8%、「休暇日数が足りないので休めない」が25.0%となった（図表44）。

＜図表 42 できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たいと思ったか＞

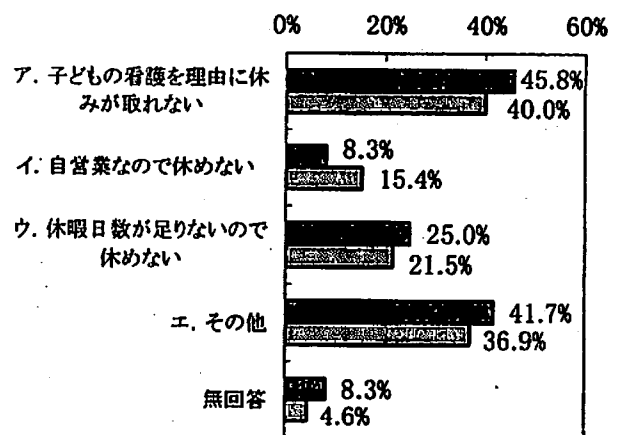


＜図表 43 希望延べ日数＞



■今回調査 (n=41) □前回調査 (n=101)

＜図表 44 理由＞



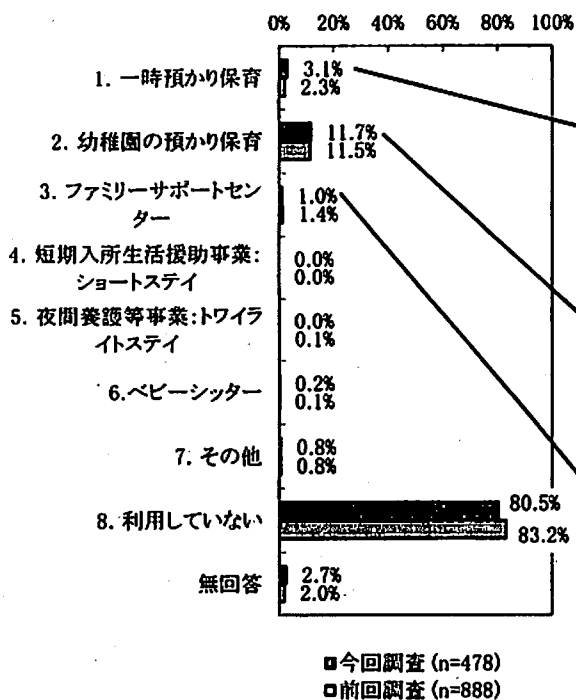
■今回調査 (n=24) □前回調査 (n=65)

(7) お子さんの不規則の教育：保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用

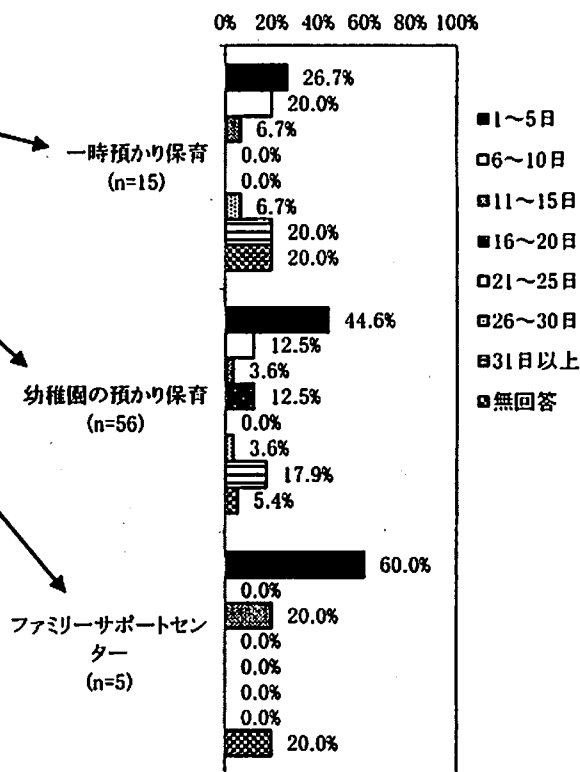
問 16 あて名のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不規則の就労等の目的で不規則に利用している事業はありますか？ ある場合は、当てはまる番号すべてに○を付け、この1年間の利用日数（おおよそ）もカッコ内に数字でご記入ください。

- ・不規則に利用している事業については、「利用していない」が80.5%となり、「幼稚園の預かり保育」が11.7%とやや多くなった（図表45）。
- ・「一時預かり保育」「幼稚園の預かり保育」「ファミリーサポートセンター」と回答した方の実際に利用している日数は、いずれも「1～5日」が多くなった（図表46）。

<図表 45 不規則に利用している事業>



<図表 46 利用日数>

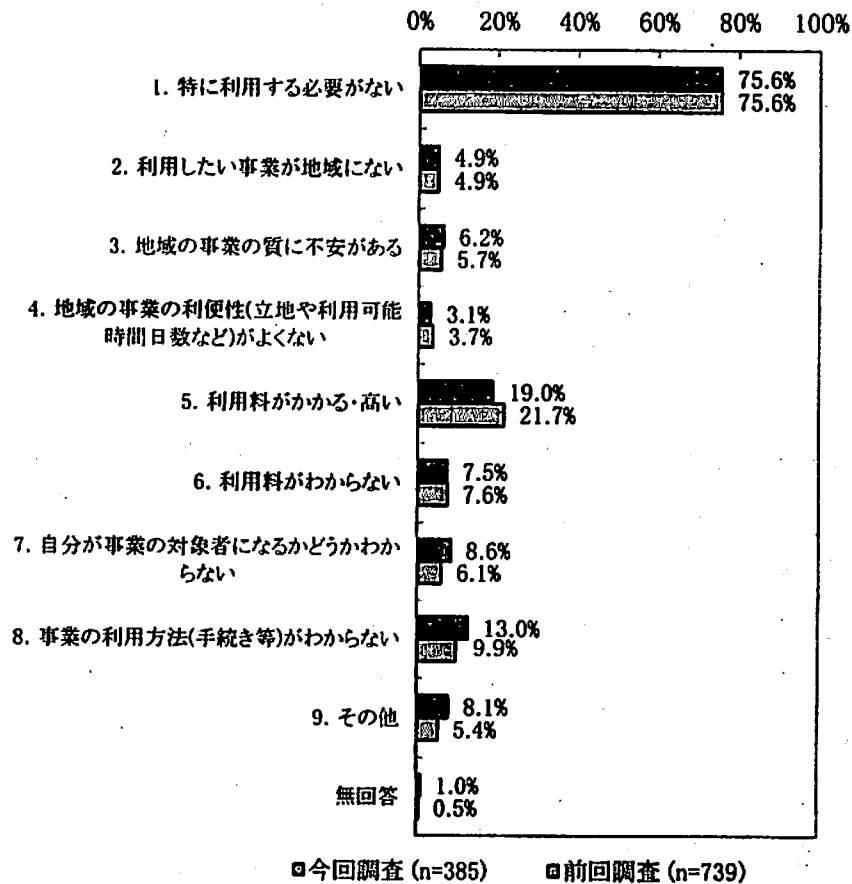


問 16-1 問 16 で「8. 利用していない」に○を付けた方にうかがいます。

現在利用していない理由は何ですか？（当てはまる番号すべてに○）

「利用していない」方の理由は、「特に利用する必要がない」が 75.6%と多くなり、「利用料がかかる・高い」が 19.0%とやや多くなった（図表 47）。

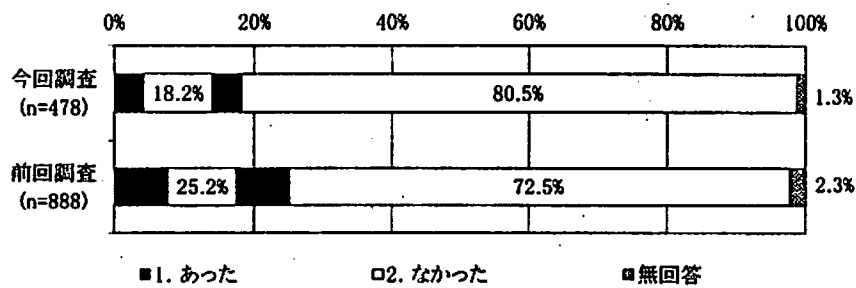
<図表 47 利用していない理由>



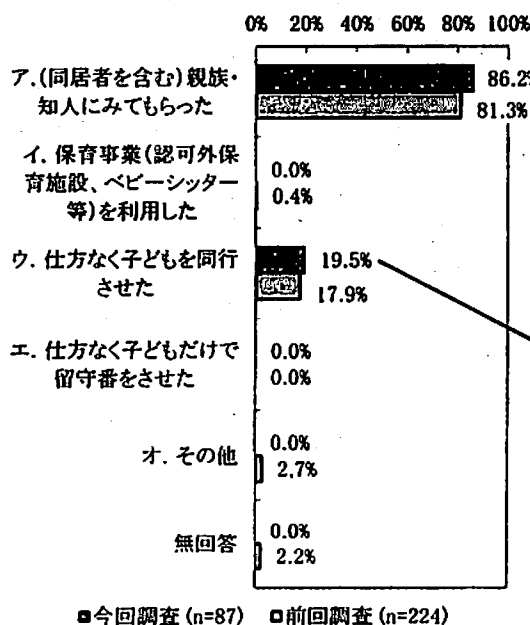
問 17 この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、あて名のお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか？（預け先が見つからなかった場合も含みます）あった場合は、この1年間の対処方法として当てはまる番号すべてに○を付け、それぞれの日数もカッコ内に数字でご記入ください。

- ・ 保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）でお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことについては、「あった」が18.2%、「なかった」が80.5%となった（図表48）。
- ・ 家族以外にみてもらわなければならないことが「あった」方の対処方法は、「（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」が86.2%と多くなり、「仕方なく子どもを同行させた」が19.5%とやや多くなった（図表49）。また、「（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」「仕方なく子どもを同行させた」と回答した方の日数はいずれも「1～5泊」が多かった（図表50）。

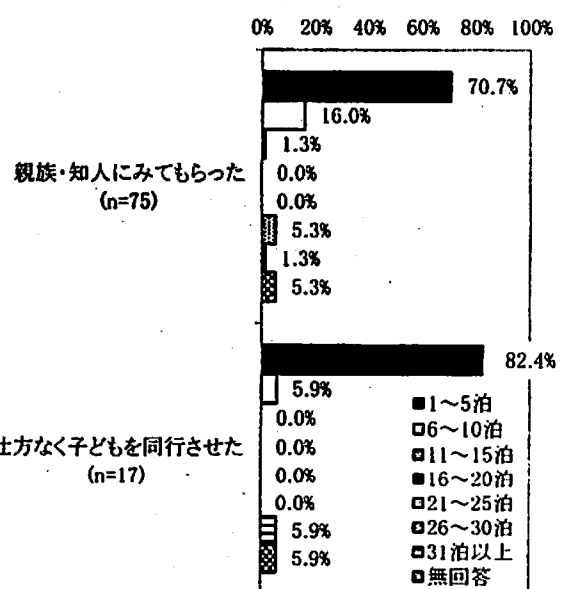
<図表 48 泊りがけで家族以外にみてもらったこと>



<図表 49 対処法>



<図表 50 対処日数>

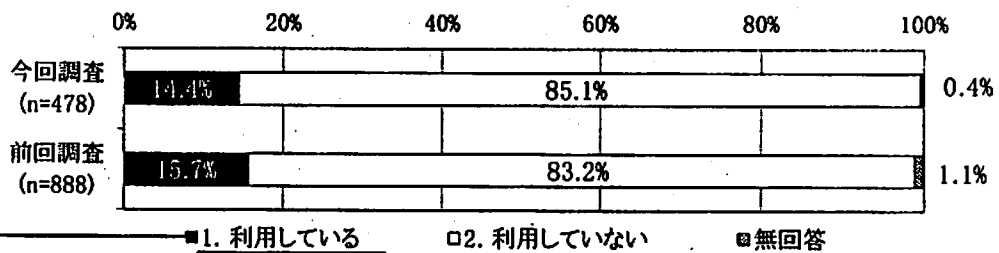


(8) お子さんの地域の子育て支援事業の利用状況

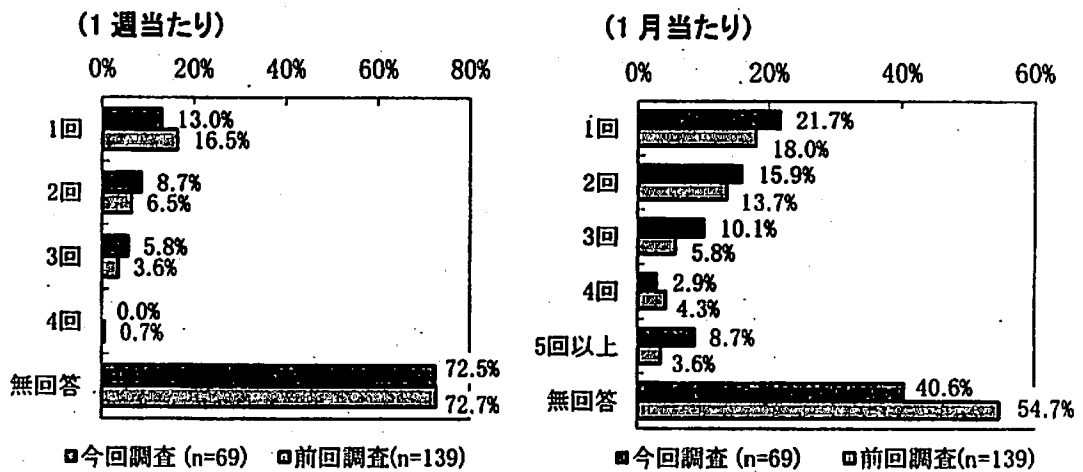
問 18 あて名のお子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業*等を利用していますか？
 ※本市では、地域子育て支援センターげんき(奥沢保育所)、風の子(赤岩保育所)、あそぼ(銭函保育所)のほか、わくわく広場(朝里幼稚園)で実施しています。
 利用している場合は、おおよその利用回数をお答えください。

- ・ 地域子育て支援拠点事業の利用状況は、「利用している」が14.4%、「利用していない」が85.1%となった(図表51)。
- ・ 地域子育て支援拠点事業および類似事業の利用回数は1週当たり・1月当たりとも「1回」が最も多い(図表52、図表53)。

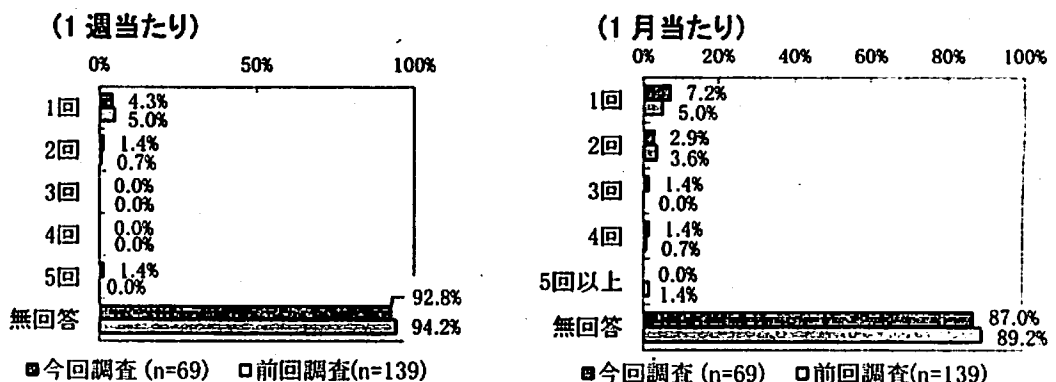
＜図表 51 地域子育て支援拠点事業の利用状況＞



＜図表 52 地域子育て支援拠点事業の利用回数＞



＜図表 53 類似の事業の利用回数＞

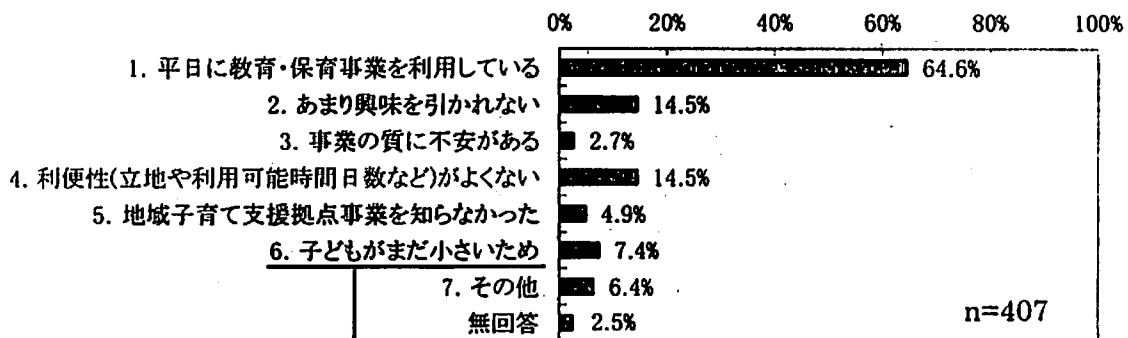


問 18-1 問 18 で「2. 利用していない」に○を付けた方にうかがいます。

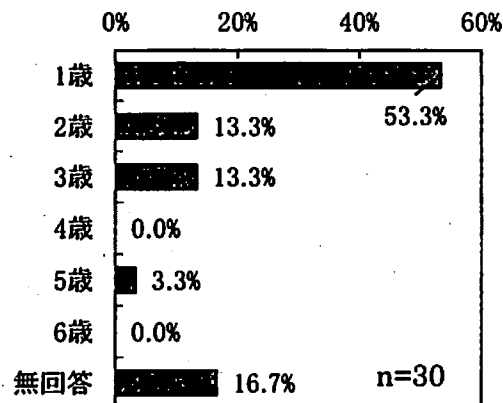
現在利用していない理由は何ですか？（当てはまる番号すべてに○）

- ・利用していない理由は、「平日に教育・保育事業を利用している」が 64.6%で最も多かった（図表 54）。
- ・「子どもがまだ小さいため」（7.4%）と答えた方の希望する利用時期は、子どもが「1歳になったころ」（53.3%）が最も多かった（図表 55）。

<図表 54 地域子育て支援拠点事業を利用していない理由>



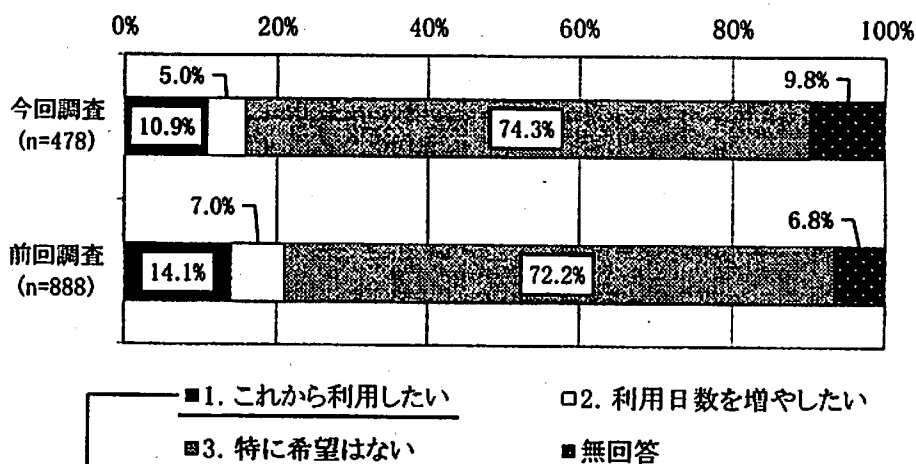
<図表 55 希望する利用時期>
(子どもの年齢)



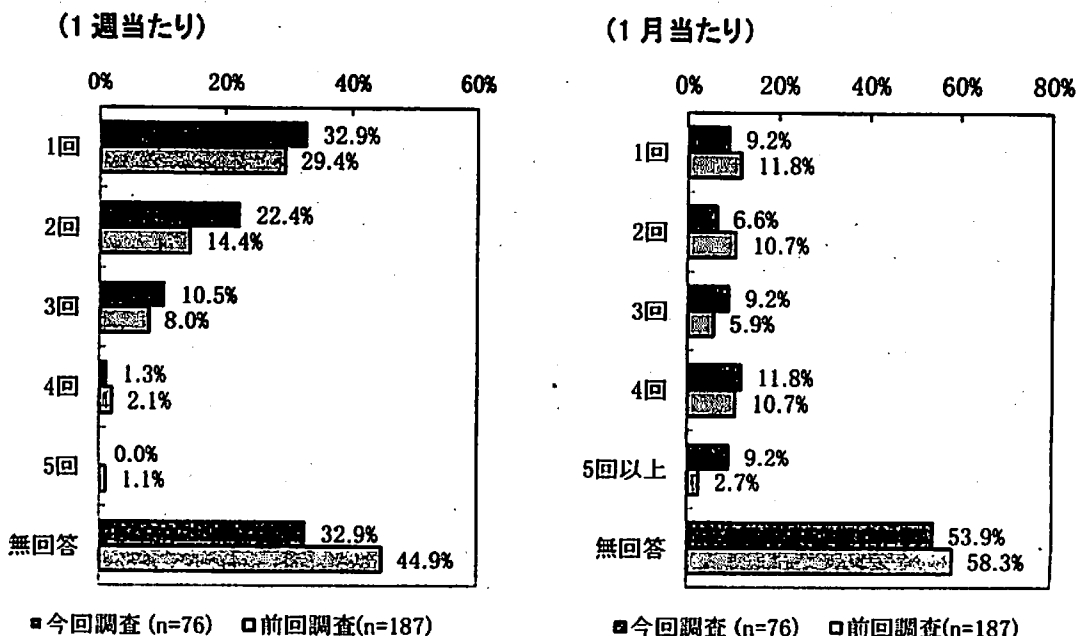
問 19 問 18 のような、地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいという希望はありますか？
希望がある場合は、おおよその利用回数をお答えください。

- ・地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望は、「これから利用したい」が 10.9%、「利用日数を増やしたい」が 5.0%、「特に希望はない」が 74.3%となった（図表 56）。
- ・「これから利用したい」「利用日数を増やしたい」と回答した方の利用希望回数は、1 週当たりでは「1 回」（29.4%）が多く、1 月当たりでは「4 回」（11.8%）が多かった（図表 57）。

<図表 56 地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望>



<図表 57 地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望>

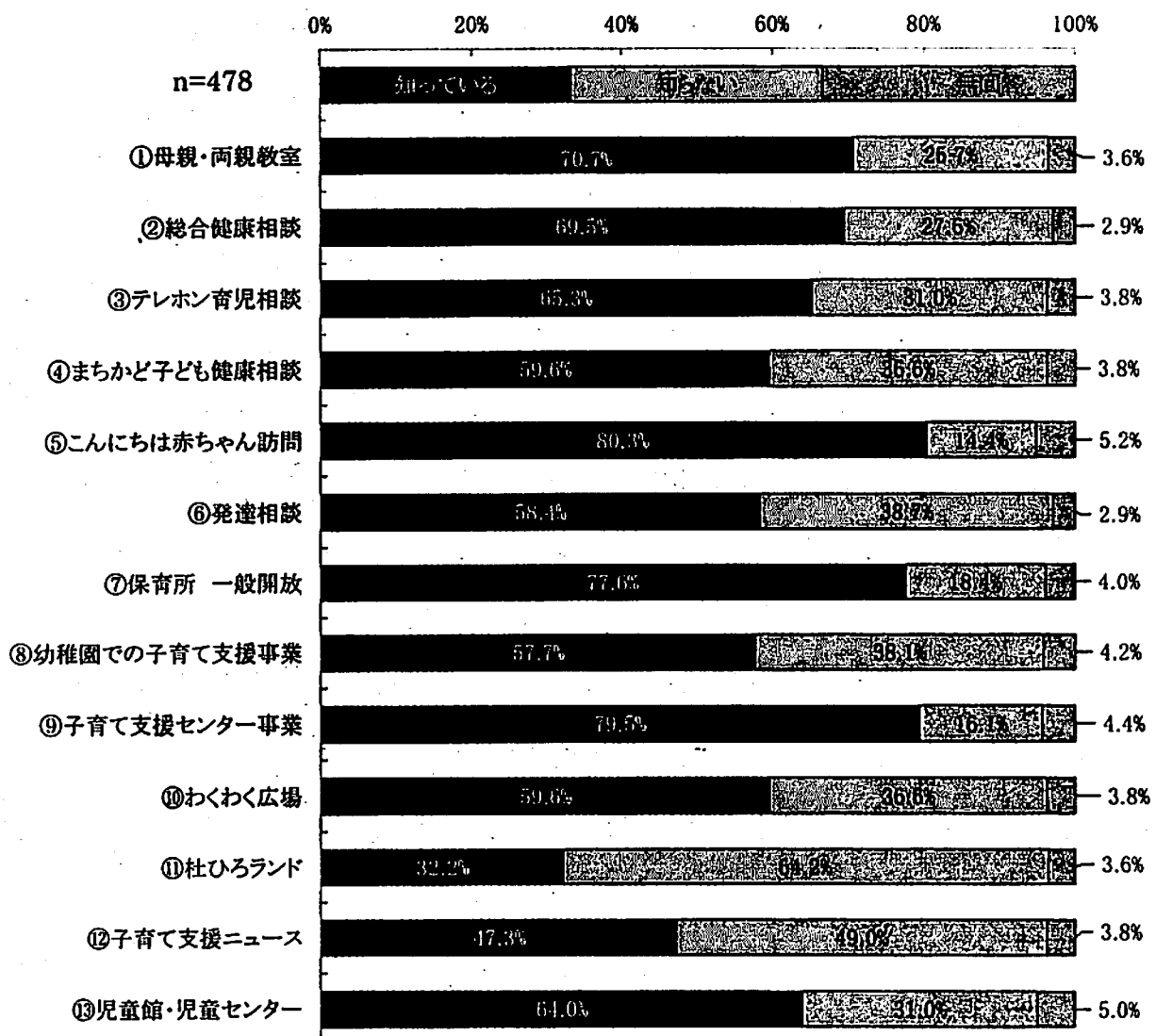


問 20 下記①～⑬の事業について、知っているものやこれまで利用したことがあるもの、今後利用したいと思うものは何ですか？

A 認知度

「知っている」は、「こんにちは赤ちゃん訪問」が80.3%（前回76.9%）、「子育て支援センター事業」79.5%（前回78.7%）、「保育所 一般開放」77.6%（前回76.1%）、「母親・両親教室」70.7%（前回74.3%）、が多い。一方で、「知らない」は「杜ひろランド」が64.2%（前回47.2%）が多い（図表58）。

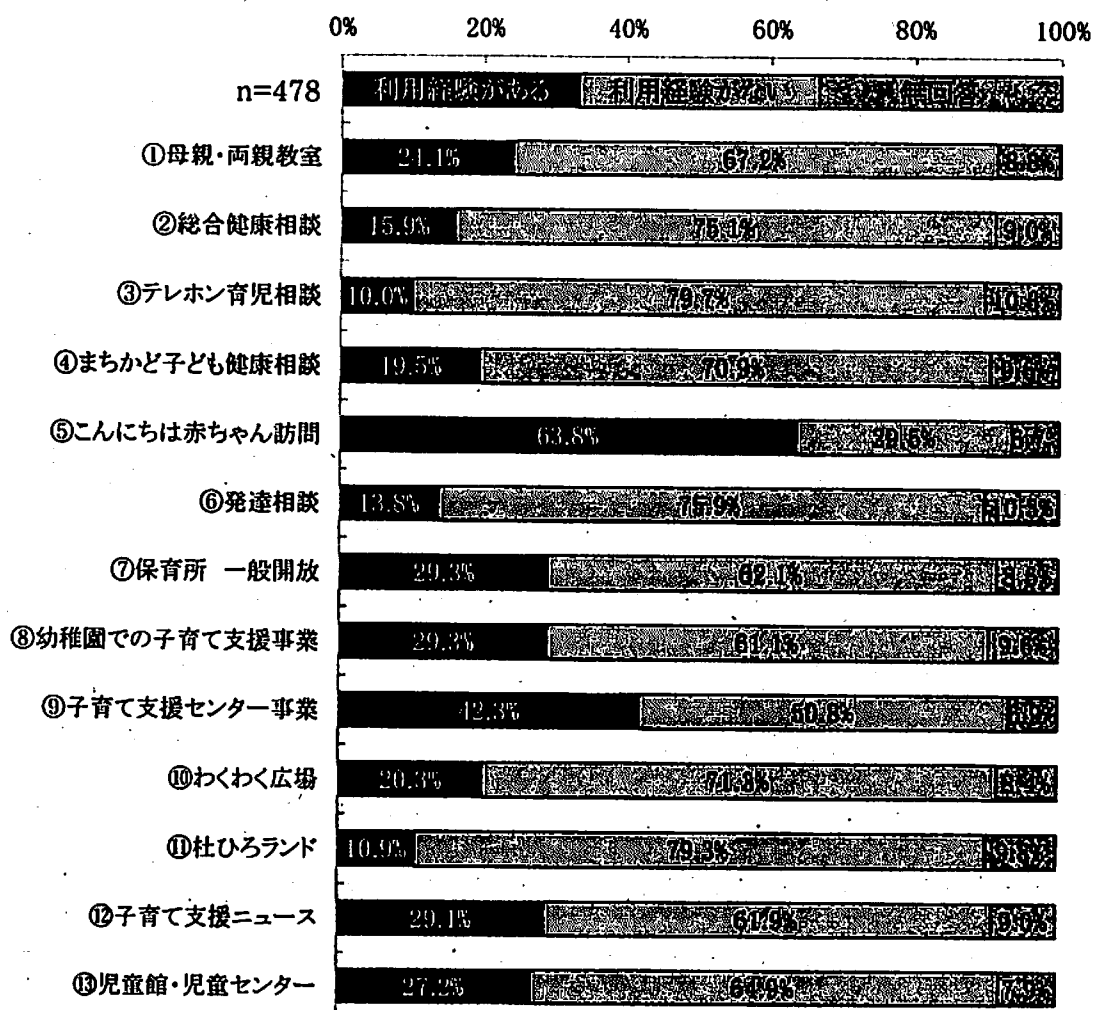
<図表 58 認知度>



B これまでの利用経験

これまで「利用経験がある」は、「こんにちは赤ちゃん訪問」が63.8%（前回59.9%）、「子育て支援センター事業」42.3%（前回39.9%）が多い。一方で「利用経験がない」は、「テレホン育児相談」が79.7%（前回79.4%）、「杜ひろランド」79.3%（前回77.1%）で特に多い（図表59）。

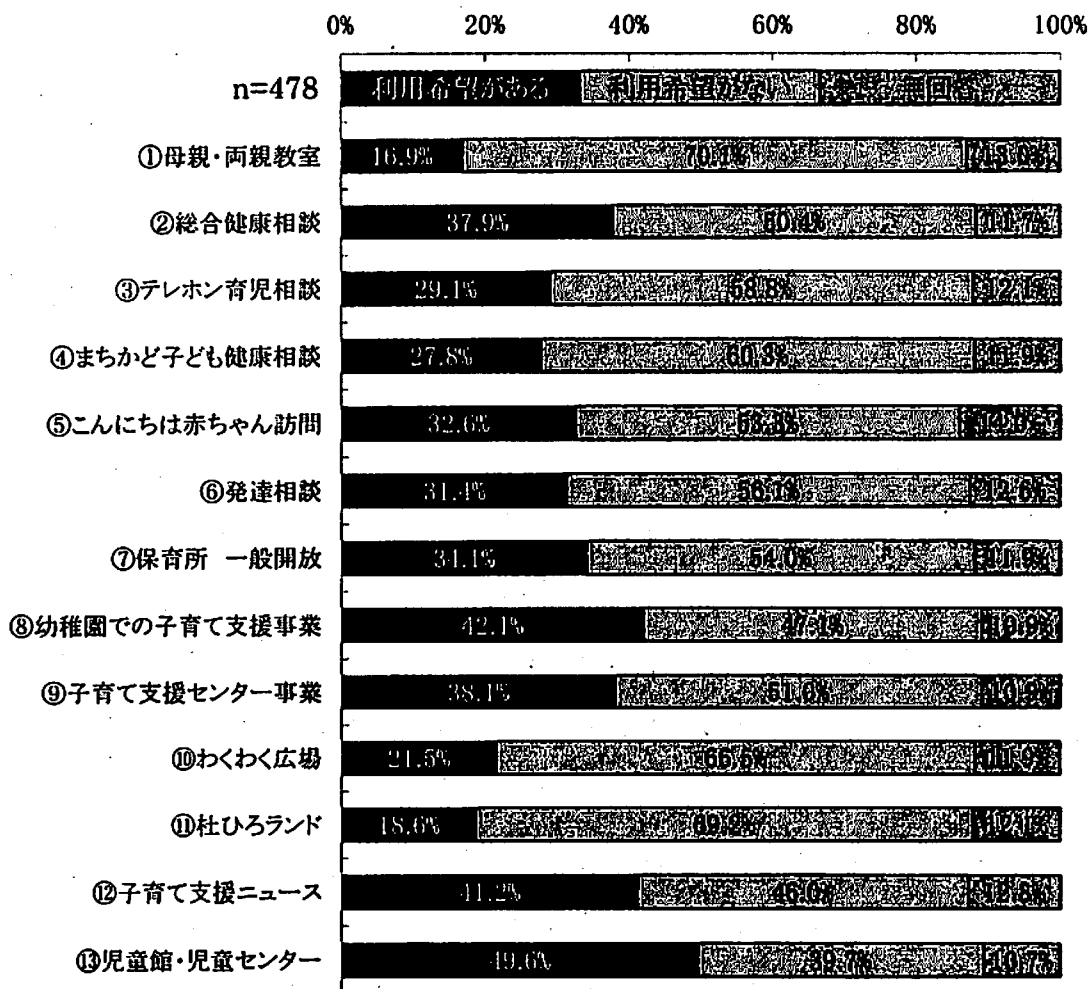
<図表 59 利用経験>



C 今後の利用希望

今後の「利用希望がある」は、「児童館・児童センター」が49.6%（前回41.0%）で特に多い。一方で「利用希望がない」は、「母親・両親教室」70.1%（前回69.8%）で特に多い（図表60）。

<図表60 今後の利用希望>

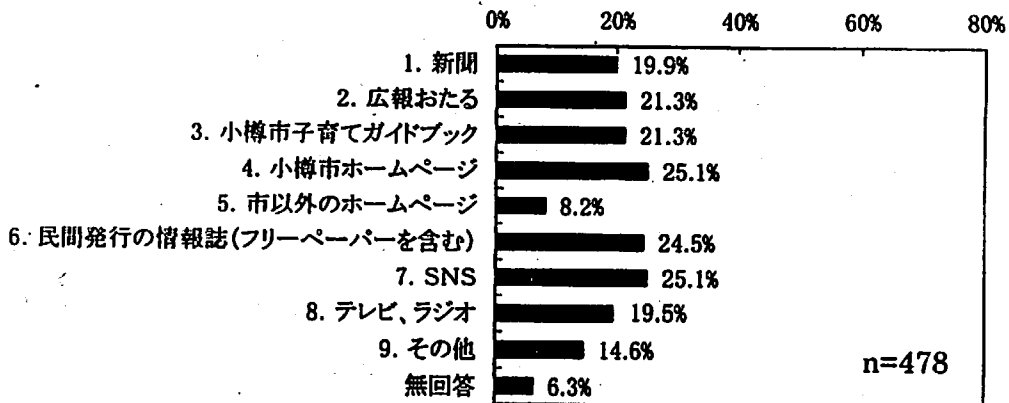


(9) その他

問 21 普段、子育てに関する情報をどこから入手していますか？（当てはまる番号すべてに○）

情報の入手手段は、「小樽市ホームページ」と「SNS」がともに25.1%で最も多く、次いで「民間発行の情報誌（フリーペーパーを含む）」が24.5%、そのほか「広報おたる」「小樽市子育てガイドブック」「新聞」「テレビ、ラジオ」が20%前後であった（図表61）。

<図表 61 子育てに関する情報の入手手段>



問 22 本市の子育て支援の取組について、ご意見があればご自由に記入してください。

本市の子育て支援の取組についてご意見を尋ねたところ、次の項目について474人から回答が得られ、ご意見の項目は次のとおり（図表62）。

<図表 62 本市の子育て支援の取組に対するご意見>

項目	件数
子どもの遊び場の整備・充実(公園)に関して	24
子どもの遊び場の整備・充実(公園以外)に関して	11
こどもの医療費に関して	15
児童館の整備・充実に関して	4
子育て情報関連に関して	9
子育て支援拠点事業に関して	19
保育所・幼稚園等の運営や利用料等に関して	45
病児・緊急時の預かりに関して	12
医療機関に関して(1)	5
医療機関に関して(2)産科について	10
母子保健(保健所)事業に関して	14
手当等に関して	8
教育に関して	3
その他	64

小樽市子ども・子育て支援ニーズ調査結果報告書

平成 年 月

小樽市福祉部子育て支援室 こども育成課

〒047-8660 小樽市花園2 著目12番1号

電話 0134-32-4111 (市役所代表)

FAX 0134-31-7031 (こども育成課直通)